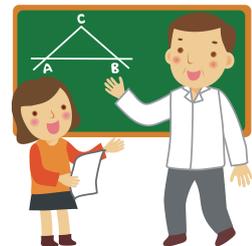
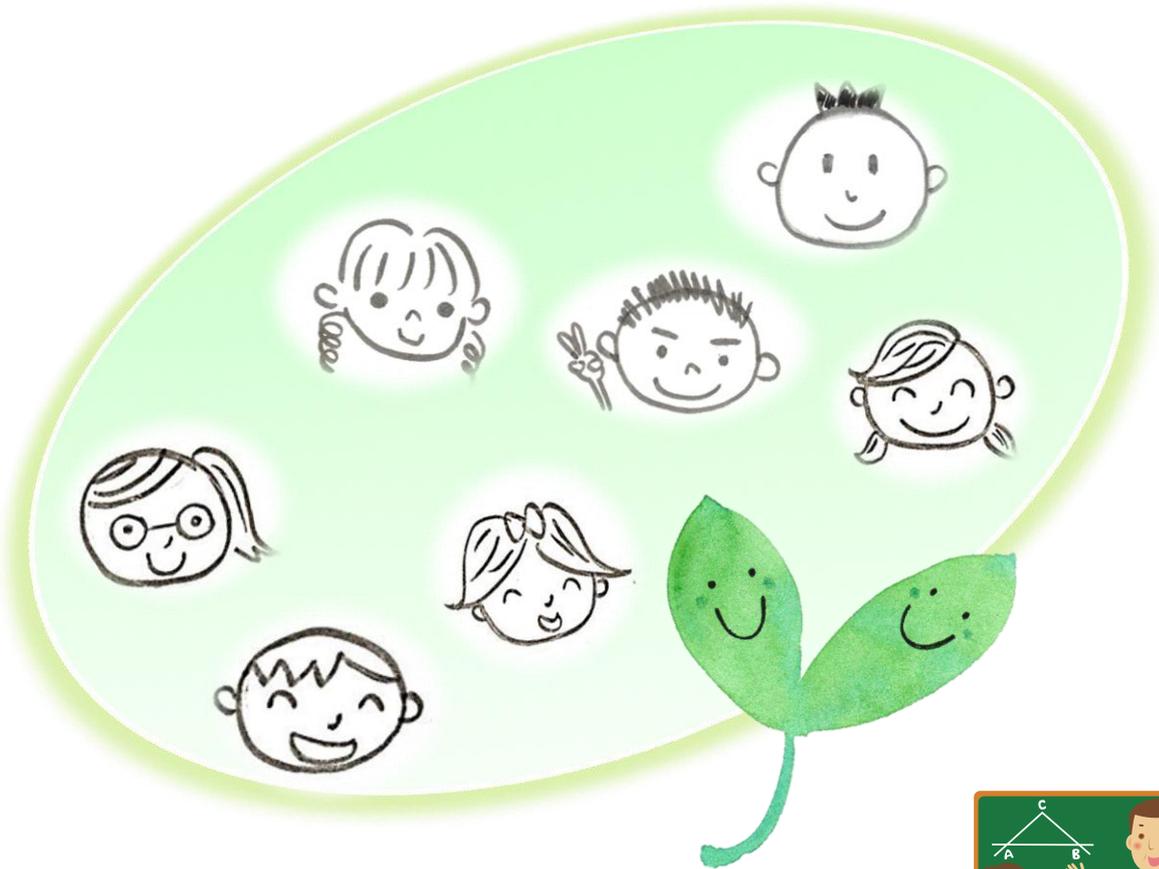


滋賀県版

学級経営スタートブック

(小学校編)



*この滋賀県版「学級経営スタートブック(小学校編)」は、平成26年度滋賀県総合教育センター「学級経営に関する研究」に基づいて作成しました。

滋賀県版「学級経営スタートブック(小学校編)」 目次

～はじめに～

- 1 なぜ、今『学級経営スタートブック』が必要か . . . i
- 2 『学級経営スタートブック』で大切にしている考え方 . . . iii
- 3 『学級経営スタートブック』の効果的な使い方 . . . iv

～第1章～ 教員生活を思い描こう



- 1 今、求められている教員像を知ろう . . . 1
 - (1) これからの教員に求められる資質能力
 - (2) 滋賀に受け継がれる「近江の心」
 - (3) 子どもの力を引き出し伸ばす実践力とは
 - (4) 教員の感性と力量アップを図るために
- 2 4月からの生活をイメージしよう . . . 5
 - (1) 教員の1年を見通そう
 - (2) 教員の1日をイメージしよう
- 3 学級開きの準備をしよう . . . 9
 - (1) 学校教育方針と学級経営案
 - (2) 情報やスケジュールを管理しよう
 - (3) 細かな準備がたくさん！真似て乗り切ろう
- 4 出合いを演出しよう . . . 15
 - (1) 1年に期待が持てる学級開き
 - (2) 勝負の3日間
 - ①指示を明確にする
 - ②めりはりをつけて、ほめ、叱る
- 5 学級のシステムを作ろう . . . 25
 - (1) 当番活動と習慣のルール
 - ①清掃指導について
 - ②給食指導について
 - ③日直の仕事について
 - (2) 朝の会と帰りの会
 - (3) 子どもと共に作る学級目標
 - (4) 創意をこらした係活動
 - (5) 好ましい教室環境づくり
 - (6) 定着を図るための振り返り

6 授業づくりの基本の考え方 . . . 36

(1) シンプルに 確実に

～第2章～ 教員としての資質を磨こう

1 自分を見つめ、準備をしよう . . . 38

- (1) 子どもと出会う機会を持つ
- (2) 「よく見る」を習慣にしよう
- (3) 自分のアピールポイントを知ろう
- (4) 目指す教員像を描こう
- (5) 様々な先人から学ぼう(読書のすゝめ)
- (6) 受け入れる広さを持つ
- (7) ストレスとうまく付き合おう

2 どの子ども自分らしく輝くために . . . 56

- (1) 子どもたちの普段の言動からSOSを読み取る目を育てよう
- (2) 特別な支援を要する子どもの対応について学ぼう

3 豊かな人間関係づくりのために . . . 59

- (1) 子どもとつながろう
- (2) 保護者とつながろう
- (3) 子ども同士をつなごう
- (4) 職員間で学び合おう

～あとがきにかえて～

(先輩教員からのメッセージ)

～資料～

- ・アンケート調査について
- ・参考文献と資料
- ・リンク

近江発！ 先輩の声

～第1章～

- 1 教員に必要な資質とは . . . 3
- 2 初任者に求めること . . . 4
- 3 私のスケジュール管理法 . . . 12
- 4 私の学級開き . . . 16
- 5 木おこり 森おこり 山おこり . . . 22
- 6 掃除当番は効率よく . . . 26
- 7 給食指導で
大切にしていること . . . 28
- 8 学級目標を
子どもたちのものに . . . 30
- 9 我がクラスの係活動
みんなを〇〇にしたい①② . . . 31～32
- 10 宿題提出の方法 . . . 34



～第2章～

- 11 「やりきった！」
といえる経験を . . . 38
- 12 学校ボランティアの経験を . . . 39
- 13 おすすめ！他者観察 . . . 40
- 14 笑顔の練習をしよう . . . 41
- 15 私のあこがれの先生 . . . 43
- 16 相手の気持ちに
寄り添うために . . . 52
- 17 思い込みの失敗 . . . 56
- 18 木を見て、森も見る . . . 57
- 19 「どうしたの？」は
魔法の言葉 . . . 59
- 20 基本は「報・連・相」 . . . 60
- 21 班で朝のトーク . . . 61
- 22 わが校の学び合い . . . 63



アンケート調査より

～はじめに～

- 1 初任者の時、学級経営で困ったり悩んだりしたこと . . . i
- 2 採用内定期間であればよかったと思う情報 . . . ii

第1章

- 3 初任1年間の月別モチベーションの変化 . . . 5
- 4 一言アドバイス ～2年目の先生より ① . . . 6
- 5 一言アドバイス ～2年目の先生より ② . . . 35

第2章

- 6 着任までの半年間で意識して行ったこと . . . 38
- 7 先輩からの検索おススメキーワード . . . 47
- 8 あなたの“ストレス注意サイン”は？ . . . 54
- 9 あなたのストレス対処法は？ . . . 55
- 10 一言アドバイス ～2年目の先生より ③ . . . 62
- 11 あなたには目標とする教員がいますか？ . . . 62
- 12 教員としての姿勢についてのアドバイス
～2年目の先生より . . . 64

ワークシートと記入例

第1章

- ①目指す子どもの姿を描こう . . . 10～11
- ②あなたの学級開きを考えよう . . . 17～18
- ③明確な指示を練習しよう . . . 20～21
- ④こんなとき、どう言いますか？ . . . 23～24

第2章

- ⑤自分の魅力を言葉にしよう . . . 41～42
- ⑥目指す教員像を描こう . . . 44～45
- ⑦あなたの知りたいことを検索してみよう . . . 46～47
- ⑧言葉かけのカードを増やそう . . . 50～51
- ⑨自分のストレス対処法を見つけよう . . . 54～55

～はじめに～

1 なぜ、今『学級経営スタートブック』が必要か



皆さんは4月からどんな教員生活を思い描いていますか。様々な勉強を積み、長年の憧れの職業への切符を手に入れた今、教員という仕事へのやりがいや子どもとの出会いに希望や期待を抱いていることでしょう。

その一方で、不安や心配もあるかもしれません。先輩教員は初任者の時、どんなことに困ったり悩んだりしたのでしょうか。

アンケート調査より 1

先輩教員に聞きました！

初任者の時、学級経営で困ったり悩んだりしたこと

第1位
84%

「学習ルールや生活の規律づくりに関する内容」

○具体的には

→ 第1章-5 (P.25)へ

- ・どんな事柄を学級のルールにしたらよいのか
- ・決めておくべき学級のシステムは何か
- ・めりはりをつけ、ルールが守れる学級にするために、どんな言葉かけをすればよいのか

第2位
83%

「子ども同士の人間関係の育成に関する内容」

○具体的には

→ 第2章-2, 3 (P.56)

- ・けんかをしたり悪い言葉を言ったりする子どもにどんな対応をすればよいのか
- ・特別な支援を要する子どもと、周りの子どもとをどのようにつなげばよいのか
- ・学級を好ましい集団にするためにどんな取組をすればよいのか

第3位 (77%) 「子どもとの出会い方や新学期の過ごし方に関する内容」

第4位 (76%) 「家庭への連絡や保護者との連携に関する内容」

<平成26年度教職2年次研修受講者(平成25年度の初任者)及び、

平成26年度初任者研修受講者へのアンケート調査より>

※アンケート調査実施の詳細については、巻末資料

滋賀県ではここ数年、多くの若い先生が採用されています。前向きでエネルギッシュな若い先生方は、教育現場でも大いに活躍されています。

4月1日に着任し、皆さんが先生として子どもたちと出会うまでの期間はたった1週間です。学校現場の年度初めは多忙を極めますが、初任者の皆さんにも新しい環境で組織の一員としての活躍が期待されています。なぜなら子どもや保護者、地域の方からすれば、ベテランも若手も同じ「先生」だからです。

着任してわずか1週間で、あなたはアンケート調査の結果に見られるような課題をどのように解決していきますか。これらの課題に対処するヒントなども含め、このスタートブックは、皆さんが少しでも4月からの教員生活をイメージし、安心して新学期に臨んでほしいと願って作成しました。

同時に教員としての在り方、求められる教員の姿についても心にきざみながら、教員生活のはじめの一歩を踏み出してほしいと考えています。

さて、あなたは4月までにどんな準備をして過ごしますか。

アンケート調査より 2

採用内定期間（教員採用試験合格から着任までの半年間）に あればよかったと思う情報

・教育現場で求められている教員の姿

→第1章-1 (P. 1)へ

・4月からの生活

→第1章-2 (P. 5)へ

・学級開きのための準備

→第1章-3 (P. 9)へ

・子どもとの出会い方

→第1章-4 (P. 15)へ

・授業や教材研究の進め方

→第1章-6 (P. 36)へ

・4月までの過ごし方

→第2章-1 (P. 38)へ

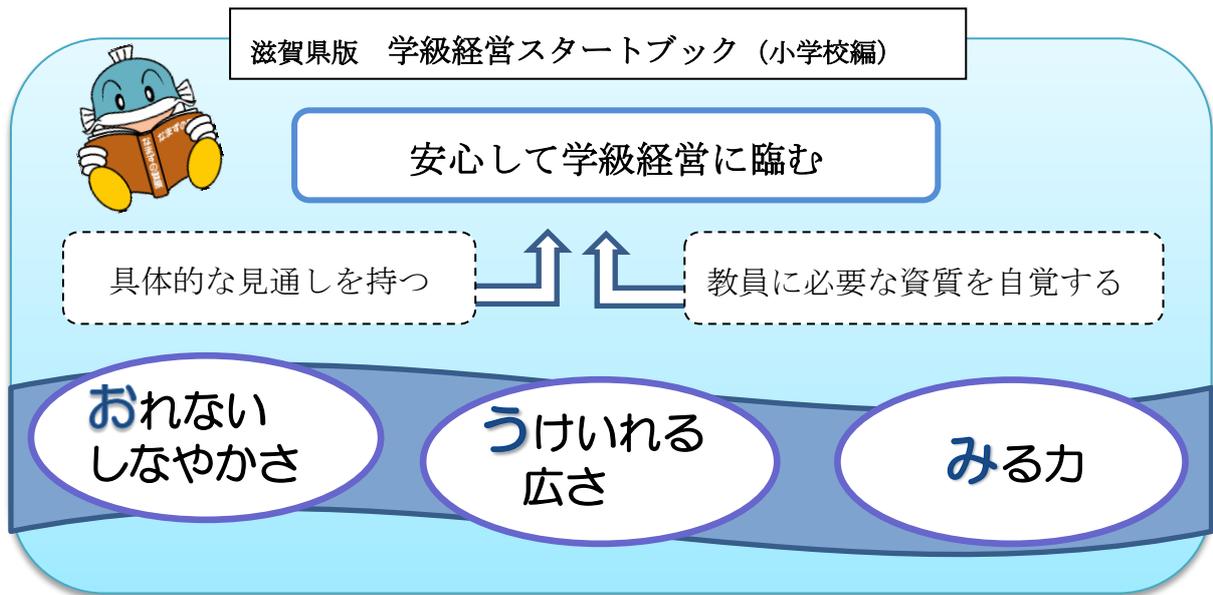
・子どもや保護者との 信頼関係の築き方

→第2章-2, 3 (P. 56)へ

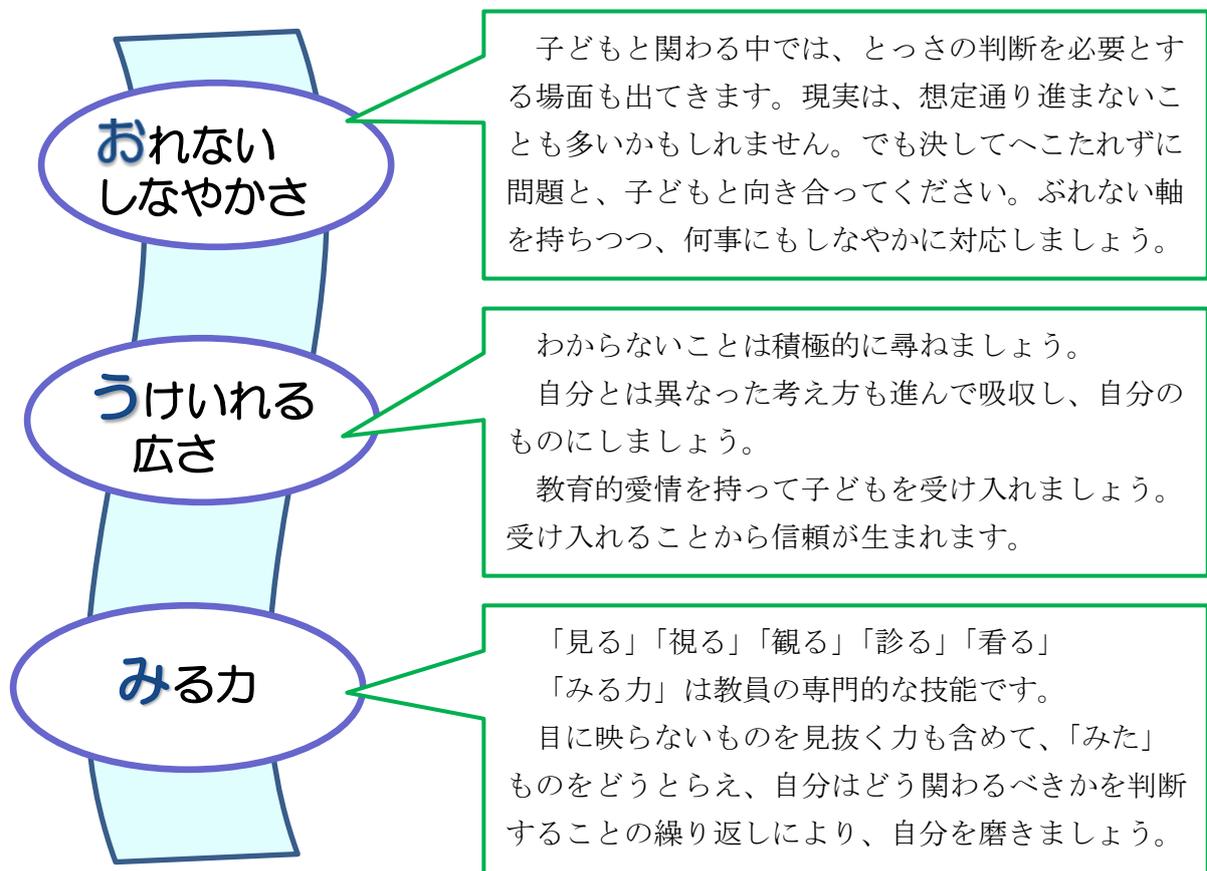
〈平成26年度初任者研修受講者へのアンケート調査より〉

本冊子は滋賀県総合教育センターにおける初任者研修、教職2年次研修の受講者を対象にアンケート調査を行い、その結果をもとに初任者のニーズに応じた項目を中心にまとめています。

2 『学級経営スタートブック』で大切にしている考え方



本冊子はスムーズな学級経営のために、「具体的な見通しを持つ」「教員に必要な資質を自覚する」ことを柱として構成していますが、根底には三つのコンセプト（もとになる考え方）があります。ここでは、「湖国おうみ（滋賀県）の教員」に求められる姿を三つのキーワードで表現しました。



3 『学級経営スタートブック』の効果的な使い方

本冊子は、初任者のニーズに応じ、現場の実態に即した内容になっています。採用内定期間にまずは一読し、着任までに学級経営のポイントを知り、具体的にイメージしてください。あなたが少しでも自信を持って学級経営に臨むための参考になるでしょう。

第1章「教員生活を思い描こう」では、主に見通しを持つことを目的とし、新年度の学級開きと年度初めの学級経営の基本的な事項について、具体的なスキルを中心とした内容としました。第2章「教員としての資質を磨こう」では、主に教員に必要な資質の自覚を目的とし、教員に必要な資質について学べる内容としました。

各ページの上部には、章と項、内容のガイドラインをつけました。これは「～はじめに～」で紹介したアンケート調査の内容と対応しています。知りたい情報から読むのもよいでしょう。

本文に加え、次のようなものを用意しました。

アンケート調査より

近江発! 先輩の声

アンケート調査や、先輩の経験を基にした現場の声です。本文に合わせて配置してありますが、「アンケート調査より」や「近江発! 先輩の声」だけを選択して読み進め、現場のイメージをつかむのもよいでしょう。

「近江発! 先輩の声」については、教員の資質を磨くために、すぐにでも挑戦できる内容もあります。着任までの時間を使って試みてみましょう。

ワークシート

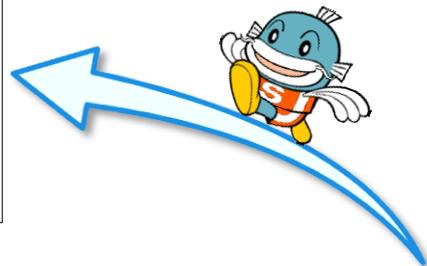
ワークシート 記入例

自ら考え、学びを得るためにワークシートを用意しました。自分の言葉に置き換えて考え記入してみると、頭でぼんやり考えていることが整理されます。ワークシートには記入例を付けました。これは、一つの例であり、答え合わせのための解答ではありません。記入例には、記入する際にヒントになることや、補助的な説明を示しています。

内容について別ページに詳しく掲載がある場合には、そのページを示し、ホームページなどのリンクも紹介しています。

本冊子の内容は、「覚えて新学期に臨む」ものではありません。本冊子をきっかけに、知りたいことを積極的に確かめたり調べたりし、発展的な学びにつなげてください。

このスタートブックは、プリントアウトし手もとに置いてください。そして、書き込んだり、着任後も繰り返し目を通したりしてください。その時の自分の状況や悩みに合わせ、二度三度と読むうちに新たな学びが得られることでしょう。



さあ、あなたも学び続ける教員の仲間入りです。このスタートブックが、教員生活のスタートとなる大切な最初の1年を乗り切る一助となれば幸いです。

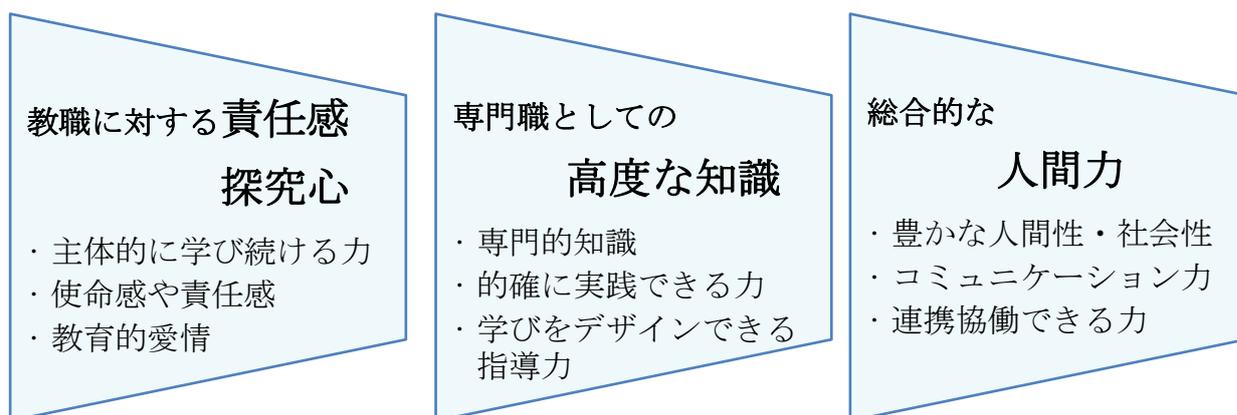
～第1章～ 教員生活を思い描こう



第1章では、着任までの準備として、求められる教員像について考え、主に4月当初の教員生活をイメージしましょう。

1 今、求められている教員像を知ろう

(1) これからの教員に求められる資質能力



具体的に
解釈すると

〈平成24年8月 中央教育審議会
教職生活の全体を通じた教員の資質能力の
総合的な向上方策について(答申)より〉

子どもが好き！こんな
子どもに育てたい！
この子は今、何を楽し
み、何に困っているのか
な。

プロとして、子ども
のために自分がすべき
こと、できることは何
だろう。

周りの先生の話参考に、
自分もこんな実践に
チャレンジ！！
チームの一員として自
分に何ができるかな。

この力をつけるためには、
どんな活動を仕組めるかな。
どう言えば分かりやすく
伝わるかな。



おうちの方と子どもの成長
を一緒に見守り、喜びたい。
地域の協力も必要不可欠。
関心をもって関わろう。

教員である自分の姿がイメージできますか？

(2) 滋賀に受け継がれる「近江の心」

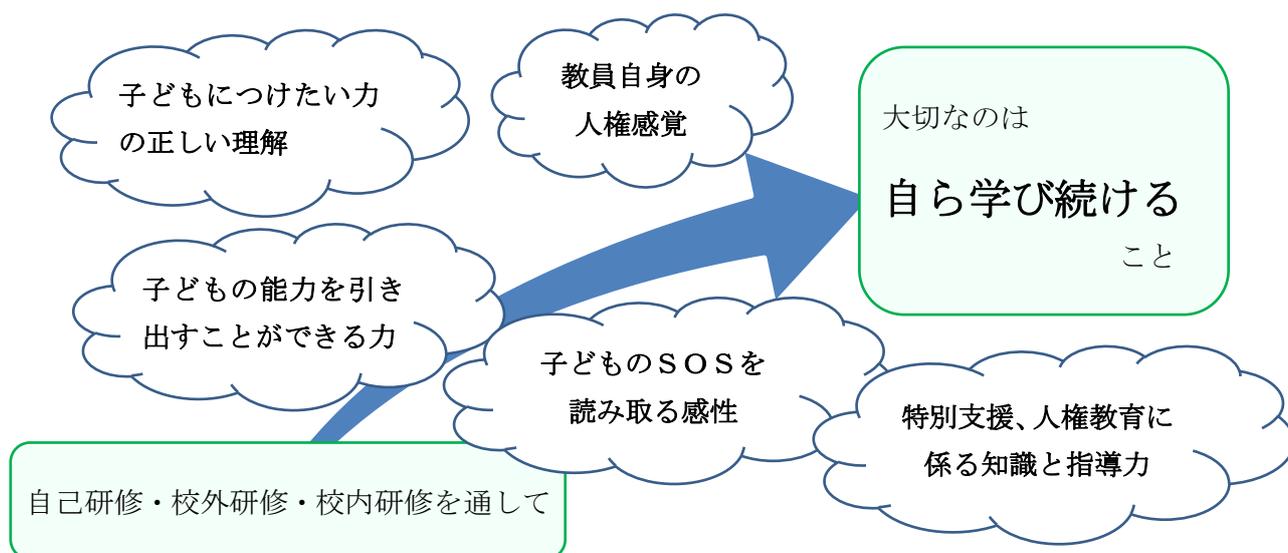
本県には、公の心を重んじ、人と人とのつながりや自然との調和を尊んでこられた先人がたくさんおられます。この先人たちの足跡は「近江の心」として今も息づいています。「近江の心」とは、次の五つを指します。あなたはいくつ知っていますか。

- 中江藤樹先生の言葉 「致良知」に表される
人としての生き方や教育の本質
- 雨森芳洲先生の言葉 「たがいに誠をもって交わろう」の考えにある
多文化共生の理念や社会とのつながりの大切さ
- 糸賀一雄先生の言葉 「この子らを世の光に」の考えにある
一人ひとりを大切にしている教育者の姿勢
- 近江商人の経営理念 「三方よし」から感じられる
滋賀の文化や歴史、暮らしのすばらしさ
- 琵琶湖とともに生きてきた近江人の「環境を大切にしている心」からうかがえる
自然や環境、いのちの大切さ

先人から受け継がれてきた「近江の心」の教育理念を念頭に、滋賀の教員としての自覚と誇りをもって教員生活をスタートしてください。

(3) 子どもの力を引き出し伸ばす実践力とは

「第2期滋賀県教育振興基本計画のポイント」(滋賀県教育委員会)には、「教職員の教育力を高める」ことがあり、その一つとして「子どもの力を引き出し伸ばす教職員の実践力の向上」が挙げられています。ここでは、「平成26年度学校教育の指針」(滋賀県教育委員会)でさらに具体的に示されている項目のいくつかを紹介します。



教員の資質能力とともに実践力向上にむけて、学び続ける姿勢が求められています。

近江弁!先輩の声1 教員に必要な資質とは



資質という言葉辞書で調べると『生まれつきの性質・才能』と出てきます。これを『教員に必要な資質』に置き換えると、『教員に必要な生まれつきの性質や才能』となります。

しかし、長年教員をしてきた私自身を振り返ってみたとき、『教員に必要な生まれつきの性質や才能』などは、どう考えてもなかったように思います。

ただ、私は子どもが好きで、子どもたちといっぱい話をしたり、一緒に何かを作ったり、一緒に感動を味わったりしたくて教師を目指しました。

この純粋な思いこそ、教員の資質につながるものだと思います。

ところで、私は先輩から多くのことを教えていただきましたが、その中で、今も心に残っている教えがあります。

『いつも温かい心と優しいまなざしをもって人に(子どもに)接すること』
『相手のよさに気づき、相手の思いを大切にすること』
そして、『驕らず、ひたむきに学び続けること』です。

子どもたちに何かを教えるあげようなどと独りよがり力んでみても、伝わらないことはたくさんあります。うまくいかないと、『子どもたちの聴く姿勢が悪いからだ』などと子どもに責任を転嫁する、とんでもないことですね。

本当に相手に伝わるような話し方だったのか、子どもの側にたった教材研究をしていたのか。謙虚にそのときの状況や自分の教え方を振り返り、学びなおしたり、子どもたちの思いを見直したりすれば、きっと次につながります。私が教えていただいた三つの教えは、振り返る教師にこそ、伝わっていくと感じます。

『教育は人なり』です。

子どもや保護者とのささやかな心のつながり合いを積み重ねることが、信頼関係を作っていきます。

そのためにも、いろいろな人や本と主体的に関わり、人としての感性を磨き、学び続けていってほしいのです。

この姿こそが、教員の資質ではないかと私は思っています。

この春からあこがれの教職に就く皆さん。

長い教職人生です。どうかいつまでも『学び続ける人』でいてください

一歩一歩、一緒に歩いていきましょう。

(滋賀県総合教育センター次長)



近江発！先輩の声2 初任者に求めること

わたしの新卒時代を思いおこすと、なりたくてなった教員ですが、着任1週間前あたりから不安で食欲が落ちたのを思い出します。

大切にしてほしいのは、まず子どもと遊ぶということです。そうすれば自ずと、きめ細かな見取りにつながり、お互いの存在がかけがえのないものになっていきます。その際、明るく接してください。パワー溢れる1日になるはずですよ。

授業については、できる限りの準備をしましょう。初めから完璧にはできません。常に課題意識を持って先輩の授業を参観し、自分自身を向上させる気持ちで経験を積み、きっと力は備わってきます。研究授業には自ら進んで取り組んでください。やった者だけが得られる学びが必ずあります。また、子どものノートや学習シート、テスト、作品などは丁寧に見て、心のこもった簡潔なコメントを付けてあげてください。

最後に、人を育てるという強い責任感や誇りを持つことです。しかし、子ども同士のトラブルやいじめの指導・対応は抱え込まないで、学年や生徒指導、先輩、管理職に相談し、実行しましょう。

大丈夫です。みんなが君の応援団ですから！ (小学校長)



(4) 教員の感性と力量アップを図るために

「滋賀県いじめ対策研究チーム会議」では、教育や、心理、医療、福祉など、幅広い分野の委員で構成され、多方面から意見を出し合うことを重視して、「いじめ問題の原因と背景」「具体的な対策についての提言」を中心に意見交換が重ねられてきました。平成25年11月に出席した同チーム会議の最終報告書での、「教員の感性と力量アップを図る」という項目において以下のような具体的対策が示されています。

- 時間を有効に使い、子どもと向き合う時間を作ろう
- 子どもの言葉や行動から SOS を読み取ろう
- 子どもたちの集団づくりのための取組をしよう
- 教員同士が学び合い、組織の一員として行動しよう



→ SOS を読み取ろうについては (P.56) 参照
ぜひ、全文をチェックし、参考にしてください。

「最終報告書 ～いじめ問題の本質と対策について～」

平成25年11月 滋賀県いじめ対策研究チーム会議

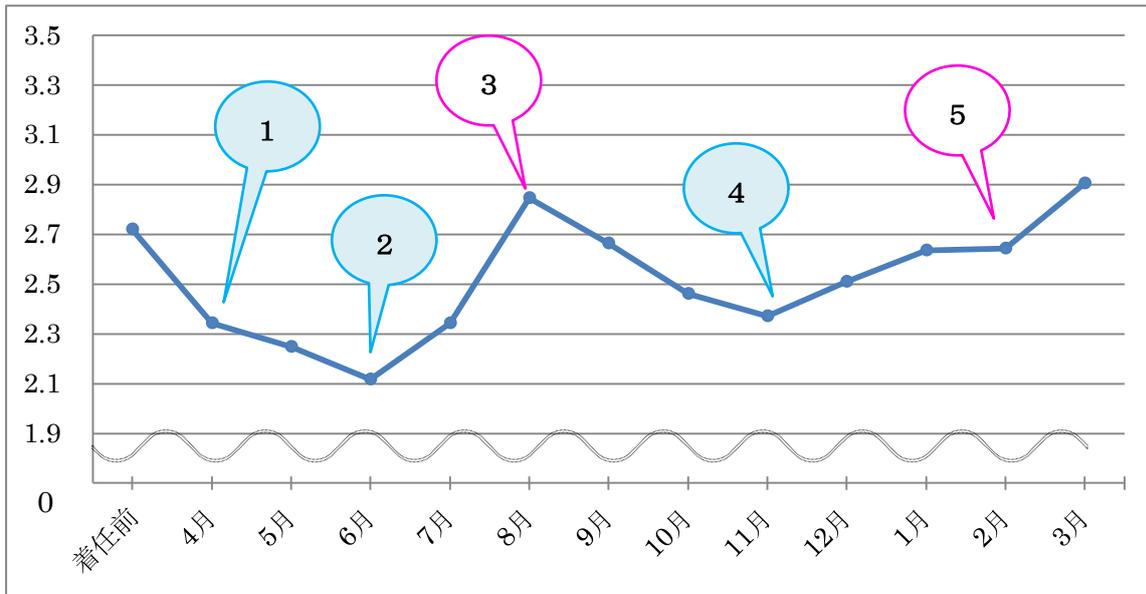
<http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/gakko/seitosidou/ma05/ijime/files/2013-11-11.pdf>

2 4月からの生活をイメージしよう

(1) 教員の1年を見通そう

アンケート調査より 3

初任1年間の月別のモチベーションの変化



4：期待や意欲が大きい 3：やや期待や意欲が大きい
2：やや不安や迷いが大きい 1：不安や迷いが大きい

〈平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

【モチベーションが下がった理由】

1 (着任して) ・見通しが持てない ・ついていけない
・想像と実際のギャップが大きい

2 (6月頃) ・自分が慣れてきて個々の課題が見えてくる
・子どもも慣れてきて、乱れが出てくる
・問題行動の対応(保護者対応含む)が出てくる
・研究授業の準備と成績処理が重なり多忙になる

この先生、このくらいなら怒らへんもん!



4 (10月～11月) ・行事が重なり忙しい (運動会・校外学習・音楽会・図工作品制作等)
・忙しさの中で、学級経営のしにくい状態が出てくる
・問題行動の対応(保護者対応含む)が出てくる



【モチベーションが上がった理由】

- 3 (夏休み)
- ・心に余裕が生まれる
 - ・リフレッシュできる
 - ・1学期の振り返りや教材研究が落ち着いてできる
 - ・研修などで学んだことを子どもに返したくなる



- 5 (年度末に向けて)
- ・学級がまとまってきたという実感が持てる
 - ・子どもの成長が見えてくる
 - ・自分自身の成長を振り返り、自信が持てる
 - ・見通しが持てるようになってくる

どうやら、学級経営でしんどさを感じる時期は5～6月、10～11月にあるようです。この時期を乗り切るために重要な時期は、新学期のスタートと夏休みです。4月に学級づくりの基礎を固めておくこと、夏休みに2学期の準備をしておくことが大切です。日々の忙しさに追われ、子どもたちの心が離れてしまう、という落とし穴に入らないためにも、長いスパンで見通しを持ち、優先順位を意識して目の前の仕事に邁進していきましょう。

悩み、迷いながらも、進んだ後には道ができます。年度末には子どもだけでなく、あなた自身も成長を実感でき、自信を持って次のステップへ進めるでしょう。

アンケート調査より 4

一言アドバイス① ～2年目の先生より

○周りの先生方が忙しくされている中、自分だけが取り残されている感覚があるかもしれませんが、焦らずに周りの先生に聞いてください。きっと皆さん助けてくださると思います。1年目はとにかく何事にもきちんと向き合っていれば、きっと成長できると思います。
(4年担任・女性)

○初めの1年はほんとうに様々なことで悩むと思います。でも、一生懸命やっていたら子どもたちは応えてくれます。相談したら力になってくださる先生は周りにたくさんいます。子どものことでたくさん悩むと思いますが、救ってくれるのもまた子どもたちです。
(3年担任・女性)

○とにかくいろいろやってみる！そのうち子どもにも自分にもじっくりくるものが見つかると思うので、それを自分の持ち味にしていけばいいですよ。

(4年担任・女性)

〈平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

(2) 教員の1日をイメージしよう

(ある小学校教員の例)

※吹き出しの中は現場の先生からの声をもとにしたものです。

出勤 ・あいさつ ・出勤簿に押印
児童登校
8:15 朝読書 8:25 健康観察
8:30 朝学習 8:40 朝の会
8:50～ 授業①② 5分休憩
10:25～ 長休み
10:45～ 授業③④ 5分休憩
12:20～ 給食指導

教室・トイレの安全点検
※窓や電気は「気づいた者で
声を掛け合いながら」を
学級の基本にしています。



朝は教室で子どもを迎えます。あいさつを交わす時、表情や態度の違いでその子のコンディションがわかることも。子どもとの貴重なコミュニケーションの時間です。かばんを片付けたり、宿題を提出したりなどの朝の準備が苦手な子には、遊ぶ前にできるような見届けておけば、朝の会がスムーズに始められます。

→ 宿題の提出については (P. 34) 参照

朝の活動は学校によって様々です。慌ただしい時間帯ですが、子どもも教員も時間を守ることを最重要視しています。
欠席児童の報告は学校のシステムに従って速やかにするよう心がけています。

何といても授業時間の占める割合は大きいです。子どもは「分かってほしい」と思っています。
豊富な知識やうまく教える技術だけでなく、授業を通して子どもを認め、励ます姿勢が重要です。



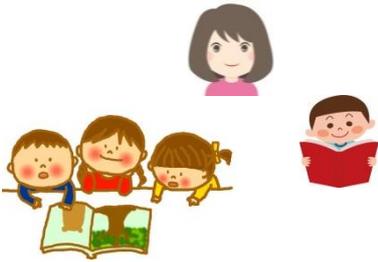
長い休み時間はできるかぎり子どもと遊びます。
体力づくりに力を入れて全校でマラソンや大縄跳びに取り組んでいる学校が多いです。



配膳や片付けの仕方、食事のマナー、衛生面や食に対する感謝の心などの指導を臨機応変にしなければなりません。
毎年、子どもがシステムに慣れるまでは、まめに声をかけています。



→ 給食指導については (P. 27) 参照

13:05～ 昼休み	係活動で、発表会やイベントの企画をする時間にあてている子どもたちも多くいます。 ひとり遊びをしている子には、状況を観察し、必要に応じた対応をします。	
13:35～ 掃除		
13:55～ 授業⑤⑥ 5分休憩	掃除は子どもと一緒にしています。 学級の担当している掃除場所を1週間に一度は回り、掃除の仕方を丁寧に教えます。 → 清掃指導については (P. 26) 参照	
帰りの会		
放課後	教室・トイレの安全点検 ※黒板をきれいにし、机を整頓しながらごみや落書きのチェックをします。掲示物や備品の破損、ゴミ箱にいっぱいのごみ、床に散らかったトイレトペーパーなど簡単でいいので細かく点検し整理しています。	
退勤 ・机上の整理 ・あいさつ	帰りの会は簡単に1日を振り返り、教員からの話は短くするよう心がけています。日直の号令に「机の整頓はできていますか。」などの言葉を入れ、皆で整頓を心がけられるようにしています。	
	会議、提出物の評価、欠席児童への連絡、記録ノートの整理、学年・入り授業教員との連絡・報告・相談、事務処理、明日の授業準備、教材研究など、放課後の仕事にはキリがありません。 優先順位をつけ、効率的にすすめましょう。子どもの学習はできるだけ早く評価し、コメントを付けて返すよう心がけています。 書類の締切も大切ですが、夕方ゆったりと聴く先輩教員の話には明日からのヒントが詰まっているでしょう。自分から積極的に交流を図りましょう。	

「初任者・新規採用教職員ハンドブック」(滋賀県総合教育センター)の「生徒指導」についての項目では、「学級担任としての1日のかかわり合い」として、教員と子どものふれあいについて具体的に述べられています。そちらも確認しておきましょう。

※平成27年度初任者・新規採用教職員対象のハンドブックは、平成27年3月上旬ごろ掲載予定です。

それ以降、滋賀県総合教育センターのHPより、パスワードを使用して閲覧、ダウンロードできます。

3 学級開きの準備をしよう

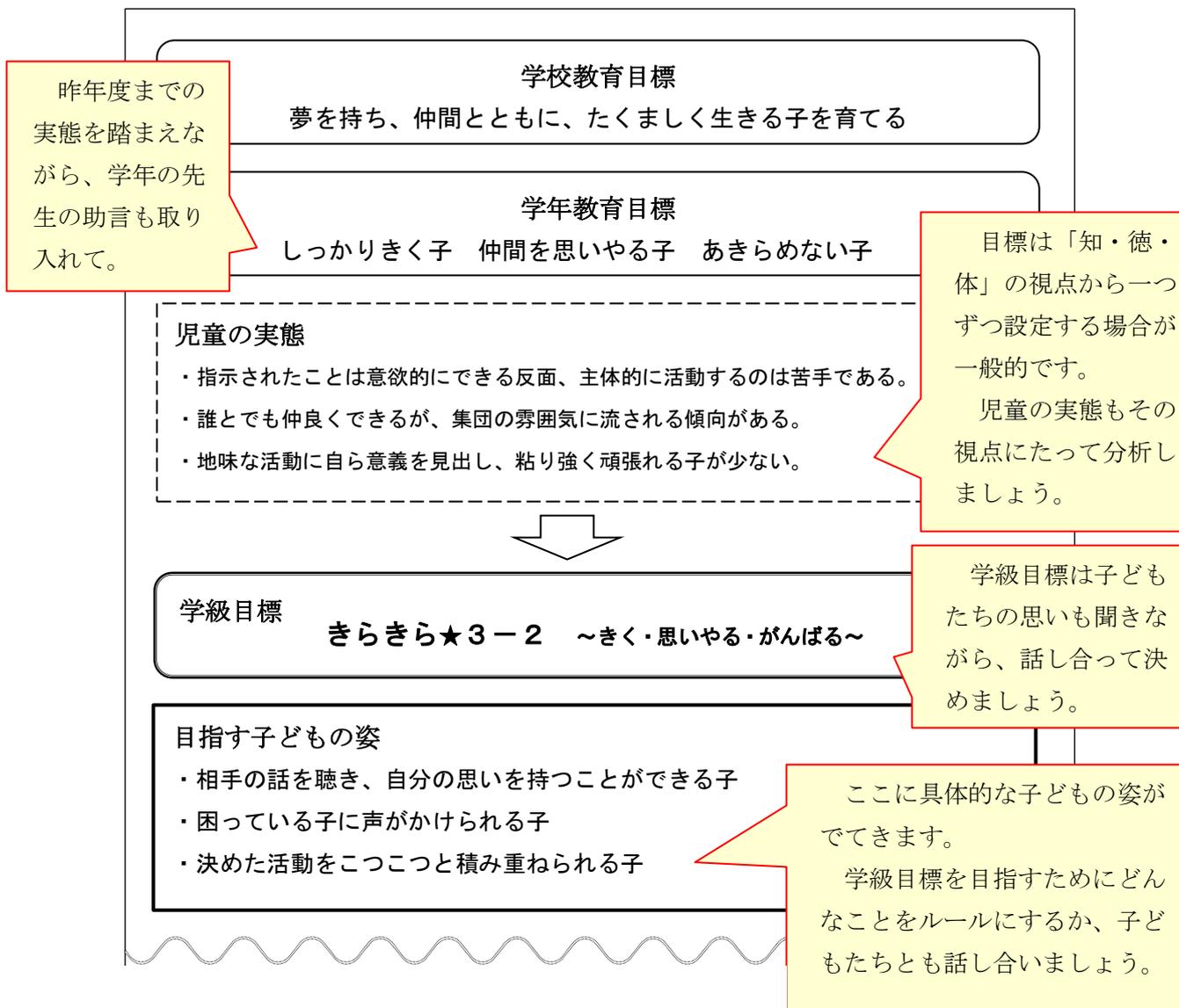


(1) 学校教育方針と学級経営案

学校経営管理計画は、着任して間もない職員会議で提案され、校長先生から説明をされるでしょう。落ち着いた時間にじっくり読み、その目標を実現するために子どものどんな姿が求められるのか、具体的に思い描いてみましょう。

また、学校教育目標が形だけにならないように、折にふれ教職員や子どもたちと共有できるよう意識しておきましょう。保護者に尋ねられた時でも、組織の一員として目指す子ども像をはっきり答える必要があります。構想図を縮小コピーして、行事予定表などと共にいつも持ち歩く手帳などに貼っておくのもよいでしょう。

《 学級経営案の例（3年生） 》



どんなことを大切にして教育を進めていきたいか、どんな学級にしたいかという思い(学級経営方針)は予め持つておく必要があります。難しく考える必要はありません。「こんな子どもであってほしい」という姿を思い描けばよいのです。「優しい子」「笑顔が素敵な子」と思い浮かべたら、「どんな時にどう行動できる子が優しい子だと思うのか」「素敵な笑顔でいるためにどんな力が必要なのか」と、より具体的になるように考えていきましょう。こうしてイメージした「目指す子ども像」が、あなたの「軸」になるのです。

学級経営方針は始業式に子どもたちにはっきり示し、子どもたちと話し合って学級目標を決める時にも担任はその方針から外れないように調整が必要になります。出会いから1週間ほどで子どもの実態をつかみ、課題や伸ばしたい力を考えられるようにしましょう。

→ 学級目標作成については (P.30)参照

ワークシート① 目指す子どもの姿を描こう

1) 次の教育目標に対して、あなたは「目指す子ども像」をどのように描きますか。具体的な場面を想像しながら書きましょう。

- ①自ら学ぶ子 →
- ②心の豊かな子 →
- ③たくましい子 →

2) 1)で考えた「目指す子ども像」を実現するためにあなたはどんな活動を仕組みますか。各二つずつ書きましょう。

- ① 「
・
・
」のために
- ② 「
・
・
」のために
- ③ 「
・
・
」のために

ワークシート① 記入例

ワークシート① 目指す子どもの姿を描こう

1) 次の教育目標に対して、あなたは「目指す子ども像」をどのように描きますか。具体的な場면을想像しながら書きましょう。

- ①自ら学ぶ子 →何のために何を学ぶかが分かる子
- ②心の豊かな子 →自分の判断で正しいと思うことができる子
- ③たくましい子 →やるべきことを粘り強くできる子

2) 1)で考えた「目指す子ども像」を実現するためにあなたはどんな活動を仕組めますか。各二つずつ書きましょう。

- ①「何のために何を学ぶか分かる」ために
 - ・単元や授業の始めにはめあてを伝え、意識させる。
 - ・子どもが主体的に学べるよう授業を工夫する。
- ②「自分の判断で正しいと思うことができる」ために
 - ・学級で考えるべき時には、必ず自分の意見を書かせる。
 - ・勇気をもって自分の意見が言えるような学級の雰囲気をつくるために学級活動を工夫する。
- ③「やるべきことを辛抱強くできる」ために
 - ・掃除を一生懸命し、毎日振り返りをさせる。
 - ・基礎的な内容の宿題を毎日課し、提出できるよう支援する。

目指したい子どもの姿はたくさんありますが、まずは「知・徳・体」の視点で特に意識して取り組みたいものを決めることからスタートしましょう。

「この力を付けるために、この活動を仕組む」という発想と同時に、「この活動によって子どもにどんな力がつくのか」という逆の発想も意識しながら先輩教員の実践を見る習慣をつけましょう。

自分が担任として「子どもにどのような活動をさせるか」を意識して日々を過ごすのと同様に、「自分がどのような行動をしていくか」を自分で作って、日頃から意識するよう心がけるのもよいでしょう。

『私の学級経営ポイント5』(例)

1. 朝は教室で登校する子どもを迎え、連絡帳をチェックする。
2. 朝の会と帰りの会では笑顔であいさつをし、話は2分以内にまとめる。
3. 子どもが話しかけてきたら手を止めて顔を見て聴く。
4. 子どもの宿題、日記はためず、次の日にはコメントを付けて返却する。
5. 教師用の机の上をいつも整理整頓する。



(2) 情報やスケジュールを管理しよう

毎月の職員会議を始め、様々な資料が配布されます。資料や情報を適切に管理しましょう。ここに情報やスケジュール管理の例を示します。

近江発！先輩の声3 私のスケジュール管理法

左ページはメモ「TO DO リスト」として利用しています。できたらチェック
例) 台紙注文
地図チェック

①いつも持ち歩く教務手帳

学校経営管理計画・日程表
年間行事予定・時間割
など、大切なものは大抵表紙裏などに貼っています。

右ページには週の予定を書きます。近年は子どもに配付した週予定表を縮小して貼り重ねています。学期の終わりに実施授業数の報告がありますので、時数を累計していきましょう。予定変更は朱書きで。

第3週 4月13日～4月17日

- 地区別児童
- 集合時刻
- 名簿作成
- 自転車実態調査
- 学級目標台紙作成

ほとんどの予定をこの一冊に記入紛失注意！

出張文書なども縮小コピーして貼ります。(時間と場所が分かるように)

左のリストとは別に週予定には細かな予定を記入しています。
例)・14:00～内科検診
5年2組から
・昼休み 移動図書館

②保存ファイル

職員会議や研修の資料のうち年間を通して参考にするため保存した方がよいもの



④ファイルとは別に、研修と生徒指導の記録用にノートを1冊ずつ設けています。

生徒指導ノートには、聞き取りや指導の内容、保護者の反応、先輩教員の助言などを時系列で記録しています。

初任研の記録には、とにかくよいと感じたことをメモし、ゆっくり時間が取れる時に整理します。

※個人情報などの管理は厳重に！！



③クリアファイル

当面(1か月)必要な資料は、クリアファイルで持ち歩き、終われば廃棄。

例)・学校行事の要項
・家庭訪問計画の一覧表

※振り返りが必要なら職員室に設けてある文書保存BOXを見て確認していました。



私は大きくこの四つに分けています。様々なやり方がありますので、先輩に聞きながら、自分の方法を見つけてくださいね。(小学校教員)

(3) 細かな準備がたくさん！真似て乗り切ろう

この時期には学級開きに向けて膨大な量の様々な仕事があり、学校全体が慌ただしく動いていますから、丁寧に「これやって、次はこれね。」などと言っている時間はありません。まずは、先輩教員をよく見て、真似ることから始めましょう。同じスピードで仕事が終わらない場合、メモをして後で時間をかけてすればよいのです。そうして、一度4月初めの1週間を過ごすとう新学期にすべき仕事のリストが出来上がります。そのリストは必ず2年目以降の自分の助けになるはずですよ。

「始業式までの TO DO リスト」の例を示しますので参考にしてください。

《始業式までの TO DO リスト》 (順不同)

- 自分の荷物の搬入
- 教室の掃除
- 机と椅子の確認
- 清掃用具点検
- 指導要録、緊急連絡カード、健康診断表などの書類を分ける。
- 書類に学級、出席番号など記入し、名前の読み方をチェックする。
(名前は覚えましょう。)
- 前年度の児童の引き継ぎ (前担任や学年の先生から情報収集)
- 健康確認 (食べ物アレルギー、持病のチェック)
- 要保護・準要保護家庭の確認
- 転出入児童の確認
- 児童の氏名印(ゴム印)分け
- 学年指導方針の確認
- 学級経営案作成 (正式な形式は、だいたい4月下旬ごろまでに)
- クラス替えの貼り出し名簿作成
- 出席簿作り
- 靴箱の位置決め
- ロッカー、傘立てなどの位置を決め、名前シール貼り
(破損やぐらつきなどを点検し、必要なら修理)
- 教科書の冊数確認
- 各教科で使用するノート、テスト、副教材の選定
- 学年で購入する文具 (ファイルやクリアケースなど) 注文
- 年間指導計画作成

必要なものは少しずつ
そろえていけば O.K!

採用前から書類の名前を覚えて
おく必要はありません。
会議などで担当の先生から出る
指示に従えば大丈夫ですよ。

**相談しながら
できることも
たくさん!**



- 週案の作成
- 学年通信・学級通信作成
- 座席表作成
- 教室の準備（黒板にメッセージ、座席や持ち物の提出方法の指示）
- 職員会議などの資料整理
- 校務分掌の仕事確認
- 児童名簿作成

（初日の呼名はひらがなの名簿を用意して臨みましょう。）

- 初日の配付物をまとめておく。
- 掃除場所確認
- 初日の宿題（自己紹介ワークシートなど）の作成
- 授業準備
- 児童の居住地区（町、字名）と登校班の確認

（校区地図に所在地をチェックしておく

家庭訪問の順を決める時など、後が楽です。）

- 給食の配膳・片付け方法の確認
- （2日目から給食開始の学校もあります。）

※給食当番表や掃除当番表を始業式までに作成する先生もおられますが、
当番の仕組みができてからでもいいでしょう。



**大切なのは
見ること！
きくこと！**

この他、市町教育委員会での辞令交付式や研修会もあります。職員会議や多くの学校で校内担当部会、学年会などの会議も行われます。

リストだけを見ると気が重くなる人もいるかもしれませんが、周囲の先生に合わせていけば、自然に準備ができていくでしょう。周囲の動きをよく見て、分からないことがあれば積極的に尋ねながら進めましょう。

学年やチームなどで一緒にできることは一緒に
しよう！先輩教員の持っているデータも、使えるものは
利用してくれたらいいよ。周りの動きをよく見ながら、優先順位
を判断して仕事を進めることが肝心だよ。

こちらも忙しくしているし、尋ねてくれた方がありがたい。

学級のオリジナルが求められる部分は、

先生のアイディアで本領を発揮しよう！

こんな量の仕事
やりこなせるかなあ



先輩教員

4 出会いを演出しよう

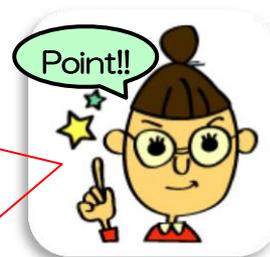
《具体的にどんなことに困りましたか?》

- ▼学級開きから3日間で具体的なルールを決めることができなかつたので、その後が大変だった。
- ▼最初の1週間や1か月が大切と言われましたが、何が大切なのか分かりにくかつたので困りました。
- ▼4月の初めにきっちり決めて、4月で徹底できていなくて、後々困った。
- ▼どんな時にどんな言葉かけをすればよいのか迷ったままで、最初の1週間が過ぎてしまいました。慣れてだれてきた学級の雰囲気を立て直すのは苦勞しました。
- ▼知り合いの先生に話を聞く・本を読む・セミナーへ参加するなどしてネタを集めた。けれど、実際にやってみるとうまくいかないことも多かつた。

〈平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より〉

(1) 1年に期待が持てる学級開き

1. 学年の先生と打ち合わせ、確認を忘れずに。
2. 前日は学校中の教室を見てまわろう!
3. 「担任が誰か」は子どもにとって最大の関心事の一つ。クイズなどわくわくできるアイデアで演出を。
4. 混乱をさけるために必要な指示を吟味して、シンプルに。
5. まずは安心感。担任も出会いを喜んでいることを伝えて。



4月8日(水)

しんきゅうおめでとう

きょうから二年生ですね。

一年生が入学してきて、いちねいがく

みんなはおにいさん、

おねえさんだね。

なかよくえがおいっぱい

クラスにしましょうね。

早くみんなに
あいたいな

わたしは、だれでしょう?

●じぶんの名まえのせきへ
すわらまじょう。

●一じかん目は、しげようじぎです。
トイレにいつて、せれにすわって
まちまじょう。

●もってきたものはあつめいめ
す。そのまもこしつたれす。

「ミッションに挑戦!」などの工夫も。達成が容易な指示ほど、後でほめることができます。

- ・クイズ形式で自己紹介
- ・「絵かくし文字」で名前を書く
- ・板書の文章に名前を潜ませるなどのアイデアも

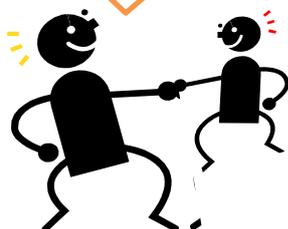
その学年ならではの行事や中学年、高学年などの言葉も意欲がわきます。

近江発！先輩の声4 私の学級開き

◆私が必ずすることは一つ。一人ひとりの子どもの顔を見ながら名前を呼ぶことです。時間があれば「元気よくて気持ちいいね」「いい姿勢だね」「やる気が伝わってくる」などほめるコメントを添えます。名前の読み違いは厳禁です。子どもの名前は覚えて臨みましょう。「君が〇〇さんか、会いたかったよ」という思いを込めて呼名をします。初日の宿題は日記。テーマは先生へのメッセージです。自己紹介と、初日や先生の印象を書いて欲しいと言います。先生へのリクエストも受け付けます。
(小学校教員)



よろしくね!



◆初日はあっという間に過ぎていきます。

私が必ずすることは三つ。

- ①ほめる（式での態度、重い教科書を運んでくれた、担任の話聞く姿勢など、材料はたくさんあるはず）
- ②明日からの学級づくりの予定を伝える
（自己紹介や係決めも予告しておきます）
- ③教室を出る時に全員と握手をする
（小学校教員）

◆私は金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥と鈴と」の一節、「みんなちがってみんないい」を紹介します。「どの子もかけがえのない存在として助け合えるクラスにしていこうね。そのために、『待つ』『聞く』を大切にしていきたい。」と伝え、ピンクのハート形の色画用紙に「待つ」「聞く」と書いたものを提示します。
(小学校教員)



◆私はギターで1曲歌っています。

（隣の学級の先生には事前に了承を得て）

曲の中に伝えたいメッセージがあるものを選び、それを学級通信の題名にしています。

いつも「出逢いに感謝！」という言葉を使います。自分自身がたくさんの人に出逢って成長させてもらっているという話を添えて。
(中学校教員)



◆サングラスをかけ登場。そのサングラスには、小さな文字のシールを貼っておきます。子どもがそれに気づいたらその文字の意味を話しながらクラスの約束を伝えます。例えば「あ」「い」なら、「あいさつ」「いのち」というように。振り返ったり、子どもと何か考えたりするときは、1年を通して同様のスタイルで行ってきました。



(小学校教員)

ワークシート② あなたの学級開きを考えよう

出会いの日、子どもが安心感を持てるように、あなたはどんなことをしますか。

あなたはどんな方法で学級経営の方針を子どもに伝えますか。また、自分にできそうな学級開きの様々なアイデアを調べ、メモしてみましょう。



→ 自己紹介については (P. 41-42) 参照

初日はあっという間に過ぎていきます。欲張りすぎず、十分な余韻を残して下校できるようにしましょう。「明日からクラスのルールを決めていこうね。」「係を決めるからどんな係がいるか考えてきてね。」「自己紹介をしてもらうので考えてきましょう。」などと予め知らせておくといよいでしょう。その際、簡単なワークシートを準備し、宿題で書いたり、練習したりできるようにしておく、スムーズに進めることができます。自己紹介は、大勢の前で話すのが苦手な子どももいますから配慮策を考えておきましょう。

学級経営のテーマになる本や曲を選んでみましょう。日頃から、「この歌詞いいな」「この詩は紹介したいな」などとアンテナを張って生活するのはなかなか楽しいものです。自分自身の感性も磨かれます。新聞などで紹介できそうな記事をスクラップしてみるのもよいでしょう。

ワークシート② 記入例

ワークシート② あなたの学級開きを考えよう

出合いの日、子どもが安心感を持てるように、あなたはどんなことをしますか。

- ・全員と握手をする
- ・全員とじゃんけんをする
- ・自己紹介をいっぱいして、明日からみんなの話をいっぱい聞きたいと話す

笑顔や声のトーンも重要です。また、服装にも気を遣いましょう。子どもは明るい色を好みます。清潔でさわやかな服装を。

あなたはどんな方法で学級経営の方針を子どもに伝えますか。また、自分にできそうな学級開きの様々なアイデアを調べ、メモしてみましょう。

- ・巻き物に書いて、みんなで引っ張る
- ・学級全員で集合写真を撮る
- ・自分の名前で作った折句を紹介する
- ・簡単なゲームをする
- ・方針を習字で大きく書く
- ・クラスの約束が書いてあるパズルに挑戦させる
- ・なぜなぜやクイズをする
- ・手品を披露する
- ・本の読み聞かせ



自分らしさを生かした演出を考えましょう。子どもの発達段階に合わせることも重要です。活動をする中で、子どもたちの個性や人間関係を観察できるものもよいでしょう。



特に低学年では、他のクラスと足並みをそろえることが多くなります。保護者や子どもに安心感を与えるためです。学校や学年で統一の合言葉があるかもしれません。会議などを通して、考えや方法をしっかり確認をしておきましょう。

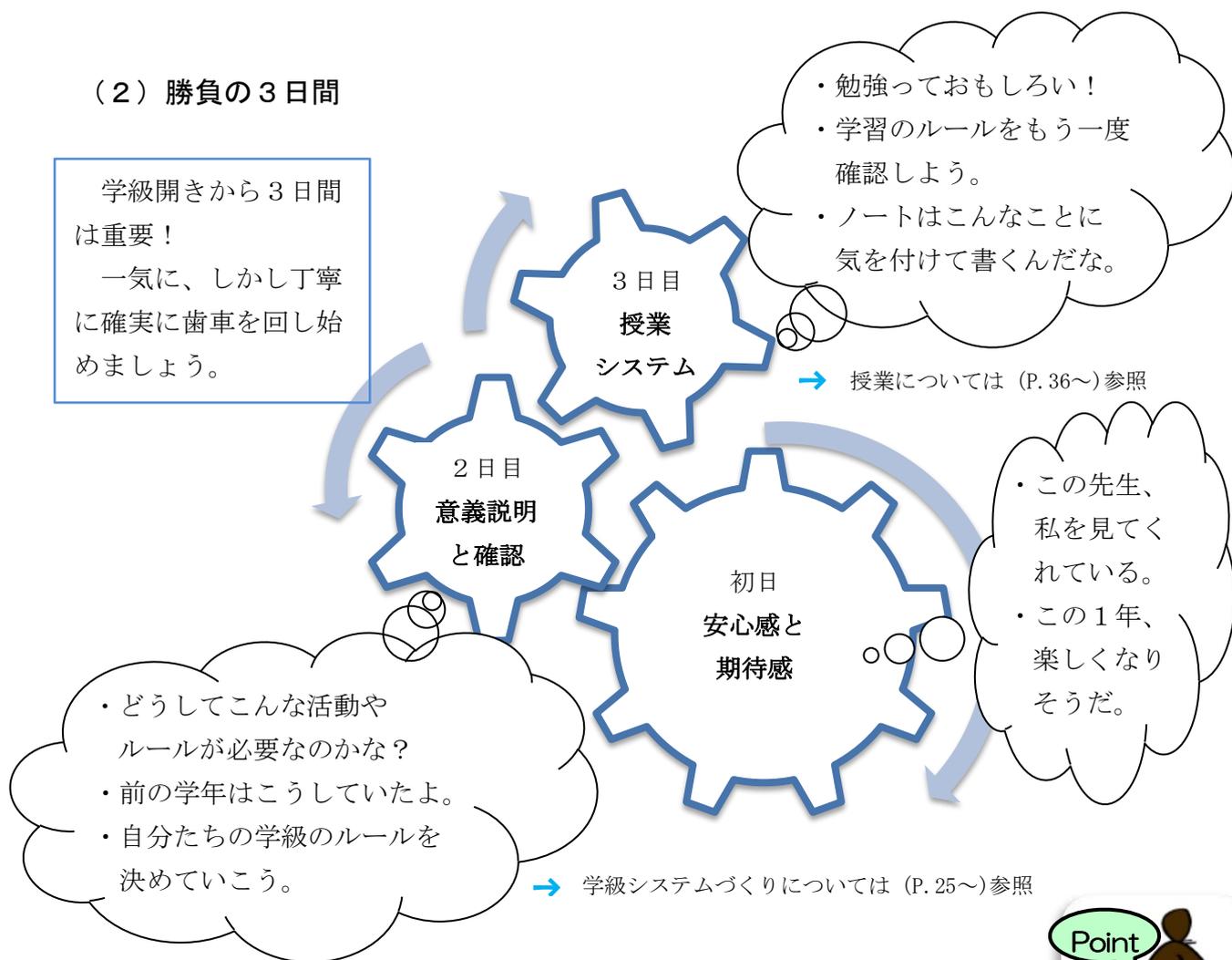
担任の自己紹介とともに、子どもたちに伝えたことや学級開きの様子、子どもの感想などを学級通信で保護者にも知らせましょう。

1年を通して掲げる合言葉は、教室に掲示するなどして年間を通して度々振り返りができるようにするとよいでしょう。歌を歌って振り返るのもよいでしょう。季節ごとの集合写真を掲示すると子どもたちも学級の歴史や成長が感じられます。



(2) 勝負の3日間

学級開きから3日間は重要！
一気に、しかし丁寧に確実に歯車を回し始めましょう。

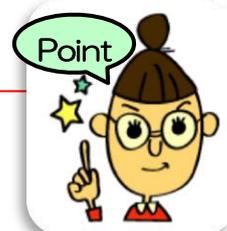


初日・・・呼名や教員の姿勢（笑顔・返事など）で安心感を、
アイデア溢れる演出で期待や意欲が持てるようにしましょう。

2日目・・・一気にクラスのシステムをつくり上げていきましょう。
なぜ、その活動やルールが必要かを確認、説明しましょう。
大切なのは、子どもが今までしてきたやり方を丁寧に確認し、皆が納得したうえで学級のやり方を決めていくこと。
(もちろん教員は前もって大まかな案を考えておきます)

3日目・・・最初の授業は、「勉強って楽しい！」と思わせることを最優先に。
授業の基本的な流れや発表の仕方、聞き方などを教えていきましょう。
ノート指導も初めは丁寧に。

- 3日間で完璧に整えるのではなく、繰り返す中で定着を図るべし。焦りは禁物！
- 始まりの3日間で特に心がけるのは・・・
①指示を明確にする。
②めりはりをつけて、ほめ、叱る。
- 年度当初の配布物には個人情報が含まれる場合があります。取扱いは慎重に。



特に教員も子どもも期待とやる気に満ちた初めの3日間は、最も大事といっても過言ではありません。子どもの安心感と期待感、意欲をより確かなものにするためにも、気を抜かず取り組んでください。

①指示を明確にする

情報を精選し、整理して示しましょう。分かりやすい説明でスムーズに活動が進めば子どもたちをほめることが増え、学級がよい雰囲気になるでしょう。

子どもの聞く姿勢と視線を確認してから、話し始めましょう。聞く態度や、指示が終わるまでは質問があっても待つなどの約束も丁寧に確認し、できたらほめるを繰り返し、定着を図りましょう。

ワークシート③ 明確な指示を練習しよう

次のA先生の指示を整理し、シンプルでわかりやすい指示に変えましょう。

今から体育館に行きます。その前に体育館シューズに履き替えます。あっ、トイレに行くのを忘れないでね。Bさん、脱いだ服がぐちゃぐちゃですよ。きちんとたたみましょう。それから後ろに並んでください。背の順で2列ですよ。



<「特別支援教育の知恵袋 実技編」平成26年3月
滋賀県総合教育センター研究成果物より>

ワークシート③ 記入例

ワークシート③ 明確な指示を練習しよう

次のA先生の指示を整理し、シンプルでわかりやすい指示に変えましょう。



今から体育館に行きます。その前に体育館シューズに履き替えます。あっ、トイレに行くのを忘れないでね。Bさん、脱いだ服がぐちゃぐちゃですよ。きちんとたたみましょう。それから後ろに並んでください。背の順で2列ですよ。

A先生の指示には全体に対して言う必要のない言葉が含まれています。

服をたためていないBさんにはどういった対応がよいでしょう。

今からすることを三つ言います。

- ①トイレに行きます。
- ②体育館シューズに履き替えます。
- ③教室の後ろに「背の順2列」で並びます。

はじめにすることがいくつあるのかはっきり言うと、子どもは見通しが持ちやすくなります。



<「特別支援教育の知恵袋 実技編」平成26年3月
滋賀県総合教育センター研究成果物より>

滋賀県総合教育センターHP 研究事業からダウンロードできます。

http://www.shiga-ec.ed.jp/index_kenkyuseika.htm

板書などして文字で表すと、記憶することが苦手な子どもの支援にもなります。

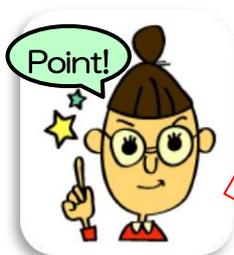
声のトーンも大変重要な要素です。かん高い声や一本調子話し方では、子どもに伝わりません。やや落ち着いたトーンで、短くはっきりと話しましょう。子どもを集中させてから小さな声で話す方法も、時々使うと効果的です。

集団への指示に一度で従えない子どもに対しては、遠くから見守る、そばで見守る(子どもへの「見ているよサイン」が必要な場合)、そっと手伝うなど、個や状況に応じて対応を変えられるとよいですね。

②めりはりをつけて、ほめ、叱る

2日目の1時間目には、じっくりと子どもと向かい合い、「先生が大切にしたいこと」(初日のおさらい)とともに、みんなが安心して学校生活を送るために守らなければならないことを伝えます。まさにこれが「ぶれない軸」です。

最も肝心なのは、ぶれない軸を持つことです。新学期の子どもたちは「この先生はどんな時に怒るのかな」と、教員の言動をよく見えています。中には試すような行動をとる子どももいます。子どもにわかりやすい原則を示し、それに対して2種類のアンテナを張って、子どもの行動に適切に対応し、ルールを定着させていきましょう。



ルールづくりのための
2種類のアンテナ
例) 私語を慎む
ルールづくり

- *アンテナを高くし、特にほめるタイミングは逃さずに
- *主語が「私」になる「I(アイ) メッセージ」(★)で話せるように意識してみましょう。
- アンテナ1 ルール遵守をほめる
 - ・「(君は)ちゃんと聞いて、えらいね。」
 - ・「(私は)うれしいなあ、助かるよ。」(★)
 - ・子どもたちの顔を見つめながらOKサインを出す。
- アンテナ2 ルール違反を叱る
 - ・「(君は)うるさい、静かにしなさい！」
 - ・「(私が)話しにくくて困るのだけれど・・・」(★)
 - ・「あれ、聞くときのルールは何だったかな？」

近江発!先輩の声5 木おこり 森おこり 山おこり

私は学級開きで「先生の三つの怒り方」と言って、絵を見せながら次の話をします。



木おこり・・・頑張れるのに頑張らない時・ルールを守らない時
わかっているのに明らかに人に迷惑がかかることをした時



森おこり・・・人の気持ちを傷つける言葉や態度をした時
頑張っている人をばかにする言葉や態度をした時



山おこり・・・命にかかわること・危険なことをした時
(自分の命も友だちの命も)

最後に、「木や森の場合は理由を聞きますが、山おこりの場合は、命に関わる重大なことなので、見た瞬間に理由も聞かずに怒りますからね。」と、伝えます。

(小学校教員)

ワークシート④ こんなとき、どう言いますか？

掃除や給食、日直当番は何のために決めるの？

Blank response area for the first question.

遊んで帰りの用意がなかなかできない子どもが数人います。
あなたはどんな対応をしますか。

Blank response area for the second question.

子どもを叱った後、どんな言葉をかけますか？



Blank response area for the third question.

ワークシート④ 記入例

ワークシート④ こんなとき、どう言いますか？

掃除や給食、日直当番は何のために決めるの？

- この活動がないと学級の仲間が困る。
- みんなのために働くことは、「人との関わりの中で学ぶこと」につながっている。
- みんなのために働くことで、自分のためにもなっている。

遊んで帰りの用意がなかなかできない子どもが数人います。
あなたはどんな対応をしますか。

(できている子に対して)

「すごい！Aさんテキパキ用意して、見ていて気持ちいいわ。」
「おっ！BさんはCさんのお手伝いしてくれている。ありがとう。」
「みんながさっさと用意できると早く帰れるね。」(★)

「お～！Dさんは静かに待っています。素晴らしい。」

(遊んでいた子がやり始めたタイミングを逃さず)

「おっ、Eさんは自分で気づいておしゃべりをやめました。」
「いいね～、Fさんも本気になった。猛スピードで追いつけています。」

(学級全体に対して)

「みんなの静かな応援でゴールに近づいてきました。いいクラスやね～。」
*必要があれば、教員が横で一緒に手伝う。
*タイマーで完了目標タイムを設定し、チャレンジする

子どもを叱った後、どんな言葉をかけますか？

- 「この話は、終わり。これ運ぶの手伝ってくれる？」
- 周りの子を巻き込んで、全く違う話題を始める。
- しばらくしてから話しかけ、雑談などをする。



特に高学年の子どもは、叱った後、わざとらしくほめるのは厳禁です。叱った後は、本人へも周りの子どもへも、細やかなフォローをし、成長のチャンスにしましょう。

学年や実態に応じた説明ができるようにしておきましょう。

実際の当番活動では、「誰かの役に立つ自分自身に子どもが誇りを持つこと」が重要であることを念頭に、子どもに関わりましょう。

軸がぶれると子どもは乱れます。基準を言語化する必要はありませんが、「これ以上のおふざけはNG」という線は教員がしっかり示しましょう。

「Iメッセージ」だけでなく、「Weメッセージ」(★)も使うと効果的です。特にほめるタイミングは重要で、しっかり見守り、逃さず声をかけましょう。

特に人権に関する内容については、細心の注意を払うことが教員には求められます。嫌がらせや、馬鹿にするような言動は見逃さず、「その言い方は嫌な気持ちになるから許されない」など、その場で短く叱り、深い理由がありそうなら後でじっくり寄り添いながら聞き取りましょう。

基本は「叱る時は個人的に、ほめる時は全員の前で」ですが、その子の性格や集団の中でどういう存在かをよく見極めて、場合によっては子どもや内容によって対応の工夫も必要です。愛情をもって接することが大前提です。

5 学級のシステムを作ろう

《具体的に うまくいったこと (○)、困ったこと (▼)は何ですか?》

- 子どもの作品はできるだけ掲示するよう心がけた。
- 教室の掲示物は、必要最低限のものですっきりさせたことがよかった。
- 係活動の掲示板を設け、工夫をこらした活動のお知らせができた。
- 放課後先輩教員の教室を見に行くのは、大変参考になった。
- ▼子どもの思いを生かしながら活動の内容を決めていくのが難しかった。
- ▼去年のやり方を聴きながら決めていくと混乱した。
- ▼学級のシステム（学習のルールや生活のルール）を4月5月で徹底できず、ぶれてしまった。
- ▼係活動の道しるべを示すのが難しく、活動が中途半端になった。
- ▼プリント類が多いので、整理や管理が大変です。

〈平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より〉

アンケート調査によると、子どもたちの実態に合わせて学級のシステムを作り、それを定着させる取組が難しく、困ったという声が多く聞かれました。

そこで、学級システムを作る上でのポイントについて述べます。

1. 議題によって、どのような話し合いの進め方がよいか考えておく。
 - ・教師が提案し、子どもと確認する形で決めていくこと or
 - ・子ども同士の話し合い中心で決めていくこと
2. 誰にもわかりやすく、ぶれない評価規準を示す。
3. 振り返りを重ねることで定着を図る。



下記のようなことは、昨年度のやり方を子どもたちに確認した後、自分流のやり方を提案し、子どもたちの納得する方法を決定していけばよいでしょう。

やり方が決まったら、初めに丁寧に説明し、1週間は見守り、根気よくやり直しをさせましょう。1か月もすればすっかり習慣として定着します。

- ・朝、登校してからすること
- ・宿題の提出方法
- ・連絡帳の書き方
- ・教室のどこに何を置くのか
- ・給食の配膳、後始末の方法（おかわりのしくみ）等

学校での共通生徒指導事項などもこれと同様に示します。

(1) 当番活動と習慣のルール

①清掃指導について

- 「なぜ掃除をするのかな。」と問いかけましょう。「みんなで使う場所だからみんなできれいにする。」という理由にとどまらず、「自分自身の成長のため」と確認してください。さらに問います。「どんな力が付くのでしょうか。」
「頑張る力」「協力する力」「働くことの大切さが分かる」などの考えが出せたら素晴らしいですね。
- 教員は自らも掃除し、見本を示せるといいでしょう。担当場所が複数でも、曜日を決めて巡回するなどの工夫も必要です。怠けている子を注意するより、頑張っている子をほめましょう。「頑張っているね。」「えらいね。」というより、「きれいになって気持ちいいね。」と「アイメッセージ」を使ったり、ぞうきんの汚れや集まったごみの量に驚いたりする方法もあります。



- ▼掃除にも振り返りは大切ですが、簡単な振り返り表を用意して、子どもたちだけで振り返りをさせているのでは、形骸化してしまいます。教員がその日に巡回した掃除場所で頑張っていた子を、5時間目の始まりに一言ほめるだけで皆も自分を振り返る機会が持てるでしょう。
- ▼ほうきの先が割れているなど、掃除道具が傷んでいては正しく掃除ができません。こまめにチェックし交換を。正しい使い方も教えましょう。

近江発！先輩の声6 掃除当番は効率よく

私は生活班で掃除場所のローテーションを回しています。掃除当番表は、毎週金曜日の放課後にその日の日直が来週の分担に班カードを移動します。

各掃除場所の役割と人数配分は仕事量や掃除道具の数などを考慮して年度始めに決めておきます。

生活班には掃除リーダーがおり、毎週月曜日の朝の会で掃除リーダーが中心になって、1週間の役割を決めます。(私は表を用意しています。)

効率よく掃除が始められるように役割を細かく決めていますが、欠席などの理由でできない場合がよくあります。そんな時は気づいた者で補い助け合うのが原則です。協力して取り組む子を見逃さずほめ、自己判断力を育てる機会にしています。(小学校教員)

心も 学校も すっきり ピカピカ	3-1 教室 すみずみまで じかじかに★	スウ ちゃん 心もこめて じかじかに★	Com.前 ろろうか 心もこめて じかじかに★
	5班	6班	1班
	5-2 教室 学年生といっしょに じかじかに★	手あらい場 と上ふき 細かいところまで じかじかに★	ろろうか と上ふき みんなのたのみに じかじかに★
	4班	3班	2班

《掃除当番表》

②給食指導について

給食指導には学級経営が反映されるといっても過言ではありません。逆もまた然りです。給食の時間には、子どもの自主性や協調性、理解力、思考力や判断力を育てるチャンスが転がっています。子どもによっては、大変な努力を要する場合があります。

担任は機会をとらえ、丁寧な個々への関わりと同時に、集団づくりの場としての適切な関わりを考えなければなりません。

Let's try.



○給食当番の決め方や配膳・片付けの仕方は、学校によって特徴があります。

年度当初の職員会議で提案されることや、学年の先生との相談をもとに自分なりのやり方を持った上で、昨年まで子どもがどのようにしてきたかの情報を聞き、細かなところまで決めましょう。決めたことは全員で確認し、徹底して行っていけば、1か月ほどでそのシステムが定着するでしょう。追加、変更もみんなを確認しながら行いましょう。

○好き嫌いについては、無理して食べさせるのは禁物ですが、子どもの自主性を尊重しながら克服に向けて挑戦させたいものです。栄養バランスの大切さなども論じて、相談しながら小さなハードルを設定し、「これだけは食べる」と子ども自身に決めさせましょう。毎日の小さな挑戦に根気強く関わりながら、食べられる物や量が増えた時には、大げさなくらいほめて、共に喜びましょう。保護者と連絡を取りあっていくことも大切です。アレルギーを持つ子どもについては、細心の注意を払いましょう。

○学級で残食ゼロを目指しましょう。

「嫌いなおかずを減らした人はおかわり NG」などと決めてしまうと、食べたい人が多くいるのに残るおかずが出てきたりします。大切なのは、「命をいただいた、作ってくださった」ことに感謝をし、しっかりおいしくいただくことです。



○片付けは教員が責任を持って見届けましょう。

おすすめは「いただきます」の直後に教員が配膳台の整理の仕上げをしておくことです。牛乳パックやごみを出す位置を明確にし、食器かごを配膳台の上に並べます。皆が片づけを始める前には、教員が見本を置いてやるとスムーズにいきます。

横で見守り、ひと声かけたり、やり直しをさせたりを繰り返していくと、習慣になってきます。





▼「宿題プリントを印刷したい」「前の授業で使った備品を片付けてしまいたい」など、「今の間にちょっとだけ」と給食の準備時間に教室を離れるのは感心しません。熱いおかずをよそったり、おかずの量などをめぐっていさかいが起きたりと、トラブルの種が多くあります。このようなトラブルのきっかけとなる瞬間は、子どもの思考力や判断力を育てる絶好のチャンスです。見逃さず、適切に対応しましょう。

近江発！先輩の声7 給食指導で大切にしていること

私はいつも、年度初めに子どもたちと「いただきます」と「ごちそうさま」の意味を確認します。これらは漢字で書くと、「頂きます」「御馳走様」となり、いずれも「食への感謝」を表現する言葉です。自分の食に携わっているすべての人や命に、改めて感謝し、心をこめてあいさつができるといいですね。

給食時間は、食事のマナーについても学びの場です。食器を丁寧に扱うことや、茶碗にご飯粒がのこらないように食べるなどのマナーについては、叱るのではなく、教員が気にして声をかけていると、子どもはすぐに慣れてきますよ。

食事中のおしゃべりや、立ち歩きなどについては、教員が守らせたいマナーを意識し、ぶれずに根気よく指導していきましょう。



(小学校教員)

③日直の仕事について

日直も学級経営には欠かせない当番です。仕事の内容だけでなく、何人で、どの順番で回すのか、などを細かく決めておきましょう。この時、係活動と当番活動の区別を子どもの発達段階に応じて話すとよいでしょう。 → 活動の区別については (P. 31) 参照



日直の仕事は写真のようなボードを用意し、仕事を終わると裏返すようにしておくと、子ども同士でチェックでき、日直本人も満足感を得られます。

当番活動を決めるポイント



1. 当番活動は輪番にしましょう。全員が体験することが大切です。
2. これらのシステムは学級スタートから一週間以内には作りましょう。
3. わかりやすい当番表を作り、皆で声が掛け合えるようにしましょう。

(2) 朝の会と帰りの会

朝の会で声を出させたいという理由で

- ・今月の歌
- ・詩の群読
- ・簡単クイズ

などをする先生もおられます。

朝の会 (例)

- 1 あいさつ
- 2 朝の歌
- 3 健康観察
- 4 係からの連絡
- 5 今日のめあて
- 6 先生より

帰りの会 (例)

- 1 めあての反省
- 2 今日のキラリさん
- 3 友だちや係からの連絡
- 4 明日の日直さん
- 5 先生より
- 6 あいさつ

「先生より」は明日の意欲につながる話を短く。整理整頓を確認し、笑顔で「さよなら」をしましょう。

→ 朝の会におすすめ! 「班で朝のトーク」については (P.61)参照

Let's try.

○健康観察は、毎朝担任が子どもと直接話す貴重な機会です。痛みや不調を訴える子、不機嫌な表情の子、しょんぼりと元気のない子など、一人ずつ丁寧に呼名し、気になる子については簡単な会話を交わし、必要なら後でゆっくり話を聴くとよいでしょう。

低学年などではリズムに合わせて元気に健康観察を行う場合もありますが、形式的になってはいけません。健康観察は児童理解の第一歩です。

○帰りの会は1日の振り返りをする時間にしましょう。めあてについて振り返る、頑張った子を認め合う時間(今日のキラリさん)を設けるなどの取組もあります。「明日の日直はCさんとDさんです。よろしくお願いします。」と明日の日直を紹介したら、全員で「CさんDさんよろしくお願いします。Aさん、Bさんお疲れ様でした。ありがとう。」などその日の日直にも感謝を声で伝える機会をもてるとよいですね。



▼朝の会が1時間目に食い込む、他学級の子どもが待っているのにまだ帰りの会が終わらないということがあってはいけません。配付物、生徒指導事項なども含め、連絡はたくさんありますが、優先順位をはっきりと決め、効率的に進めましょう。前もってスムーズに始められるような工夫をし、てきぱき進める習慣をつけましょう。

▼日直が朝の会、帰りの会の司会進行を担うことが多いですが、形だけの進行役ではいけません。学級全員が堂々と司会進行できる力を身に付けられるような支援の工夫をしましょう。初めはマニュアルを見ながら、次は姿勢や発声などポイントを示して意識させるとよいでしょう。

No Good.



(3) 子どもと共に作る学級目標

《具体的に うまくいったこと (○)、困ったこと (▼)は何ですか?》

- 学級目標を大きな柱として学級経営を行った。
- ことあるごとに学級目標に返り、4月のガンバロウの気持ちをお互い思い出した。
- ▼ルールと目標をしっかり区別できていなかった。
- ▼子どもの話し合いが十分できない。(低学年)

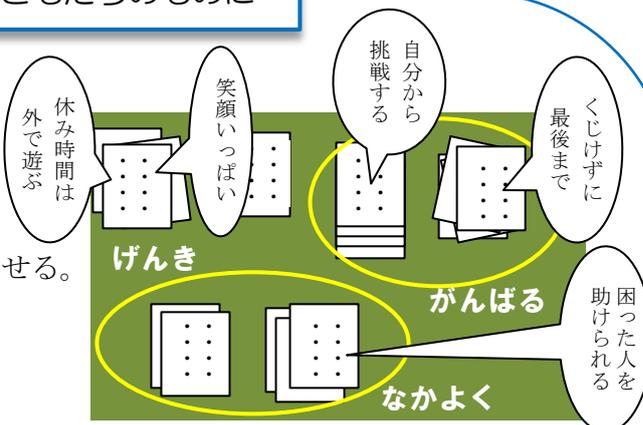
〈平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より〉

始まりの1週間でおおよその学級のシステムを作ったら、次は学級目標を子どもたちと一緒に作りましょう。これは、学校の方針や教員が持っている学級経営方針に、子どもたちが考える理想像を織り混ぜながら作っていきましょう。

近江発!先輩の声8 学級目標を子どもたちのものに

《決め方》

1. 教員のイメージを簡単に伝える。
(学校教育目標や学級経営方針)
2. 「どんな学級にしたいか」
「どんな学級で過ごしたいか」を考えさせる。
(キーワードがあると考えやすい)
3. B5の紙に「どんな学級にしたいか」
を書かせる。(何枚書いてもよい)



4. 書けた紙を黒板に貼らせる。

自分の願いと同一のもの、似ているものを近くに貼らせ、グループ化する。

*グループ化の作業は、学年の実態に応じて行う。低学年だと教師主導、高学年ならできるだけ子ども同士でさせる。

5. グループの中の願いを一つの言葉でまとめる。

→ 完成

私は、学級全員の協力で(高学年なら学級オリジナルのアイデアで)学級の掲示を制作することが多いです。作った学級目標は学級のよく見える場所に1年間掲示し、機会をとらえて振り返るといいでしょう。

学級目標が決まったら、次はその目標を具現化することが大切です。いわば、学級目標はゴールで、そこにたどりつくためにどんなめあてやルールが必要かを子どもたち自身が考えるのです。自分たちで決めた学級目標を自分たちで日々の行動に結びつけることができれば、学級目標は子どもたちのものとして生きたものになると思います。

(小学校教員)

(4) 創意をこらした係活動

係活動の取り扱いについては、「学習指導要領特別活動編（小学校）」に示されているように、①全員で自主的に行う活動、②児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしており、そのために教員は「児童が十分に創意工夫して計画し活動できるように適切に指導することが望まれ」ます。発達段階に応じて、日直などの当番活動と係活動の区別を分かりやすく説明し、創意工夫のできる係を設け、活発に活動できるシステムを整備しながら進めていきましょう。

近江発！先輩の声9－① 我がクラスの係活動！みんなを〇〇にしたい

私の学級では、年度当初に時間を確保し、係活動をじっくり決めていきます。係活動は、ないと困る仕事ではなく、子どもたちが創意工夫できる活動を学級全員で考えます。

《決め方》

1. 学級の仕事を思いつく限り出し合い、板書する。
2. その仕事を次の二つに分ける。
 - ①無いと困る仕事。全員ができるようになってほしい仕事。
 - ②生活をよくするための仕事。クラスを楽しくさせる仕事。
3. ①の仕事は、日直や給食などの当番の仕事に、②は係の仕事にする。
4. 作る係を決める。

(少し時間を設け、どんな係が作れるか、工夫ができそうか、宿題で、高学年の教室見学や兄弟などへの取材を促す。)
5. 自分がやりたい係を決める。メンバーは二人で成立、五人まで。多すぎたら話し合いをして、係の分割などの工夫をする。

例) 遊び係の希望者が多ければ、室内遊び係と体育遊び係の二つを作るなど。

①カーテン・窓・日付・予定・電気
黒板けし・朝の会、帰りの会の司会
あいさつの号令・本の整理

②なぞなぞ・かざりつけ
遊びの計画



【係のネーミングの例】

- 楽しいミラクルあそび係・・・みんな遊びを計画する
- わくわくダンス係・・・ダンスの練習をして発表会をする
- キラキラかざり係・・・教室をきれいに飾り付ける

高学年の児童になると、さらに「当番を決めてやるまでもなく、気づいた人で補い合える仕事」などの区別を作ります。もちろん担任はよく気が付いている子どもを把握し、ほめます。学級全員が押し付け合わず働き、してもらったら「ありがとう」と言い合える学級を目指しています。(先輩の声9－②へ続く)

近江発！先輩の声9-② 我がクラスの係活動！みんなを〇〇にしたい

《活動の仕方》

- ・何をして、クラスをどう盛り上げるのかをめあてとし、係のポスターを作る。
- ・発表会やクイズ大会などを企画、必要なら日程調整をする。
(全員参加か任意の参加かなども自分たちで話し合い決める。)
- ・学級の人みんなに活動をアピールする。
(係のポスター、お知らせミニ黒板、朝の会・帰りの会などでお知らせする。)
- ・活動は休み時間が原則。
- ・係のポスターに活動記録(日付としたこと)を書く場所を設け、うまくいったらシールを貼る。
- ・学期に一度学級会で見直し、改良する。

※自分が考えた活動で集団に貢献でき、それが認められると、学級の中にその子の居場所ができます。係活動を通じて「あなたはこの学級にとってかけがえのない存在だよ」というメッセージをしっかりと伝えられるといいですね。
(小学校教員)



教室のかざりつけをしてみんなをウキウキさせる

振り返り
機会の確保

お知らせ
スペースの確保



活動時間の確保

- ・書き込み式のカレンダーを教室に常に貼っておく。(担任は予め学校行事などを記入)
- ・各係の発表会などの予定を記入。
- ・重ならないように調整。

イベント計画

中休み	後休み
10/7	
8日	マジック
9日	
10日	
11日	だいごご 体育大会
15日	
16日	
17日	
20日	
21日	
22日	マジック
23日	
24日	
27日	
28日	
29日	マジック
30日	

《係のポスター》
～キラキラかざり係～

《お知らせミニ黒板》

《イベント計画カレンダー》

(5) 好ましい教室環境づくり



子どもたちの生活の中心となる教室を清潔で落ち着いた空間として整備、維持していくことは、教員の重要な役割です。

安心・安全を確保するのはもちろんですが、整理整頓や教室掲示等で、明るくやる気のある雰囲気をつくりましょう。

○どこに何を片付けるのかをはっきりと決め明確に示すことで、教室の整理整頓はほぼうまくいきます。ポイントは、子どもたちが整理できるようにすることです。ロッカーやかごなどに片付け方の見本の写真を貼るとより分かりやすいでしょう。

○紙類の分類は普段は大まかにし、定期的に時間をとって整理しましょう。配付物の余りをまとめておく場所を確保し、配付後も1か月ほどは保管しておいた方がよいでしょう。

《紙類整理の例》

※預かった提出書類などは絶対に紛失しないように管理しましょう。



Let's try.



○担任教員は可能な限り、一番に教室に入ることと、最後を見届けて出ることを心がけましょう。放課後は黒板をきれいにし、掲示物や机のみだれ、落書きなどがいないか点検しましょう。

教室以外にも、廊下やトイレ、昇降口の点検もできるといいですね。

▼換気や採光にも細かな配慮をしましょう。むっとする部屋で汗ばみながら学習させたり、カーテンを閉めずに直射日光が当たる場所でノートを書かせたりしてはいけません。掃除時間は必ず窓を開けることや、授業中は電気をつけることを教え、子どもがまめに調節できるよう習慣づけましょう。子どもが「寒い」などと嫌がっても、理由を説明し、正しい学習環境を整えるのは教員の大切な仕事です。



No Good.



▼「つかまえてきたよ！」とバツやトカゲなどを子どもが教室に持ち込む光景はよく見られます。安易に教室で飼育するのは感心しません。学習にふさわしいか、本当に学級で世話ができるのか、衛生面での問題はないか、納得いくまで話し合しましょう。命の尊さを考える機会にもなりますね。

近江発!先輩の声 10 宿題提出の方法

私は朝8時まで教室に入り子どもたちを迎えながら、登校した子どもたちから出された宿題にどんどん丸つけをしていきます。

子どもは、班ごとに分けられたBOXに宿題を提出し、宿題チェックシートに自分で丸をつけます。私は丸つけの済んだノート類と、チェックシートの丸の数を確認します。班ごとに分けて提出させると、未提出の子を見つけやすく、早く声かけられます。

目標は「宿題のチェックや丸つけは朝の会までに終わらせる」です。

(小学校教員)



(6) 定着を図るための振り返り

最初の3日間を経過しても、引き続きルール違反と遵守を見逃さないアンテナを高く張り、めりはりのある対応をすることが大切です。一般的にターニングポイントは、1週間、1か月の頃といわれています。初めはやる気満々の子どもたちが慣れたり疲れたりして、けじめがつきにくくなる頃です。

教員の一貫した指導と同時に、子どもたちが自身で振り返り、よりよい生活を目指そうとする力をつけていくことも重要です。一言で「振り返り」といっても、様々な機会に様々な方法でできます。以下に振り返りの例を4パターン示します。

<p>《評価指標を決めて振り返る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標などの、大きなめあて・スローガンに対して、自分の具体的な行動に置き換えた評価指標（めあて）を決め、それができたかどうかを振り返る。 <p>例) ・授業で発表を2回以上できた ・友だちと仲良く過ごせた</p>	<p>《観点を決めて振り返る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や学校行事にむけて、自分で決めためあてを達成するために自分の行動はどうだったのかを振り返る。 <p>例) ・やる気で取り組めたか ・友だちと助け合えたか ・次回がんばりたいと思うこと</p>
<p>《定期的に振り返り、見直す》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月や学期のはじめに朝の会や学級会などで現状の成果や課題を話し合い、修正や改善をしていく。 <p>例) ・今月のめあて（学級） ・学期ごとの個人目標 ・係活動</p>	<p>《その都度振り返る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で、トラブルなどをきっかけにルールを再確認し、必要ならルールを追加・修正する。 <p>例) ・人権にかかわること ・給食のおかわりの方法 ・掃除のやり方など</p>



帰りの会で友だちの頑張った姿を発表し合うのも立派な振り返りですね。めあてを達成できたらシールをためていく、日記や振り返りシートを書くなど、目に見える形で振り返りを続けていけば、子どもが自身の成長を感じられる素敵な資料になることは間違いありません。

振り返りは、悪かった点を反省し、できなかったことを改めるためだけに行うものではありません。よいことを積極的にほめ、反省点は、次回どうするのかと前向きに問いかけ考えさせることで、次への意欲に結び付けましょう。このような振り返りを続けていけば、子ども自身にそういう考え方が身に付いてくるはずですよ。

主語が「私」になる「アイメッセージ」や、物事を肯定的にとらえる力や言葉がけについては、コーチングなどのスキルをトレーニングしておくといよいでしょう。

→ コーチングについては (P. 48～) 参照



アンケート調査より 5

一言アドバイス② ～2年目の先生より

○何をルールにしたらよいのか、何をさせるべきなのか、初めての時は何もわからなかった。とにかく学年主任の先生のまねをして、夢中で4月を過ごしました。

(3年担任・男性)

○素敵な実践はたくさんあり、やりたいことはいっぱいあるけれど、中途半端にならないように、本当に必要なものを選んで最低限を自分で決めて行ったことが良かったです。欲張りすぎず、でも新しいことを求めることが大事だと思いました。

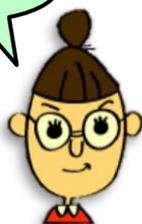
(5年担任・女性)

○子どもの状況に合わせ、「必ずしなくてはならないこと」を決めたり、「特に注意すること」をしっかりと話し合ったりしていく中で、「なぜそうしなければいけないか」、「そうすればどんないいことがあるか」などを考えさせるようにしました。

(4年担任・男性)

<平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より>

Fight!



子どもたちの実態（個性・人間関係・集団としての特徴・積み上げてきた力など）と、学年の発達段階、地域の特徴、学校の方針や学年の先生のやり方など、様々な要素がある中で、あなたの長所を發揮しながら、教員と子どもたちでより良い学級集団を作り上げていくのです。

「こうやればうまくいく！」と言い切れる方法はなく、環境を受け入れ、自分の思いと組み合わせながら常にベストを目指して探り続ける姿勢が大切です。ただ、「こういう子どもに育てたい」という信念と、信頼関係があれば、たいていのことは乗り切れます。

6 授業づくりの基本の考え方

(1) シンプルに 確実に

1日の大部分は授業ですから、特に小学校教員は授業も学級経営の一部と言えるでしょう。「おもしろい」と思わせる教材を工夫するのはもちろんですが、大切なのは子どもの「分かってほしい」という思いを受けとめ、個々の学びを励まし、認めていくことです。温かい愛情はうまく教える技術以上に子どもを成長させることを忘れないください。

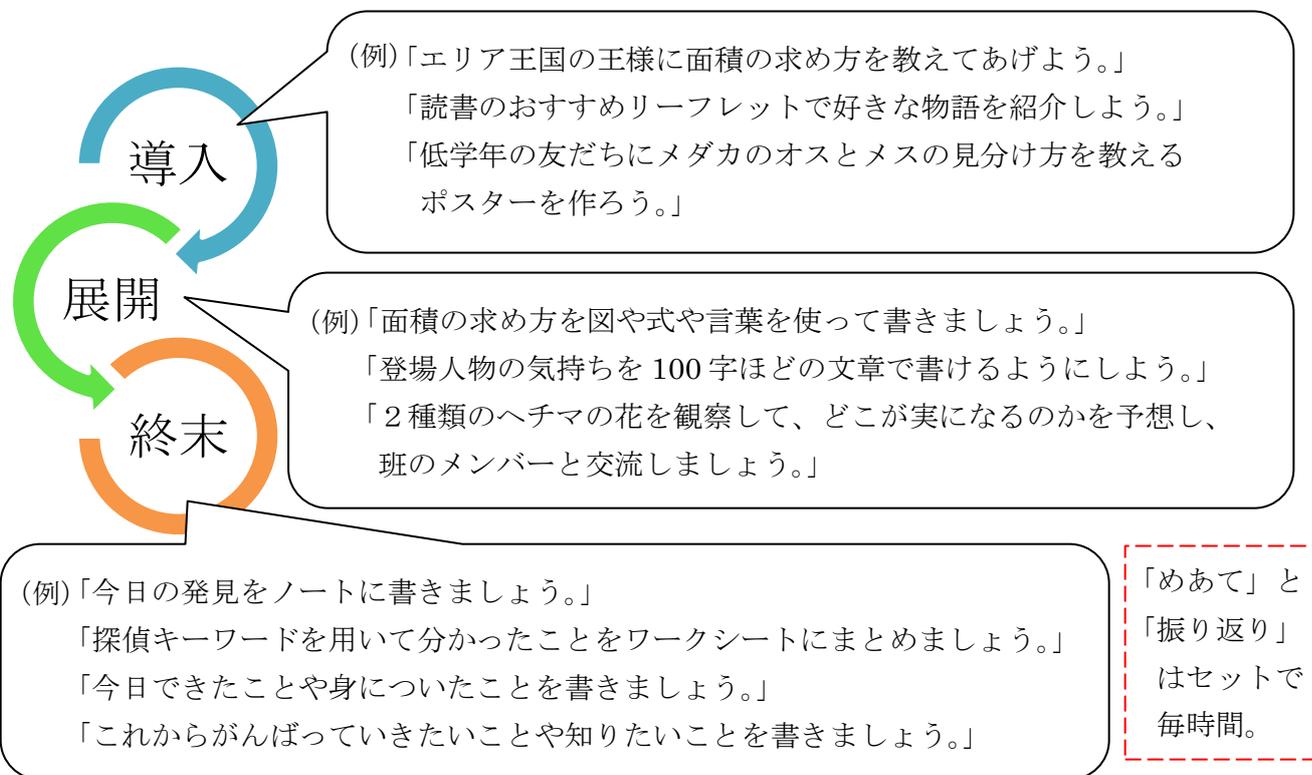
教える技術、授業を組み立てる技術については、誰もが長い教員生活で研究し続けていくテーマです。初めのうちは、次のポイントを確実にやることを心がけましょう。

パターン化し、定着を図る



1. 子どもが1時間のめあてを知り授業に臨めるようにしましょう。【導入】
(単元計画の中で、本時はどのような位置づけなのかということを確認)
2. 子どもが主体的に学習できるよう進めましょう。【展開】
3. 子どもが自身の学びを自覚できる振り返りをしましょう。【終末】

具体的で子どもが理解しやすい言葉を選びましょう。



教員の発問に答えるという受け身の学びではなく、「この時間に何を学習するのか」「どんな順番で授業が進んでいるか」「次はどんな学習をするのか」などを子どもが理解できていた方が、子どもは主体的に学び、学習効果もあがります。

教材研究ノートは子どもと同じものを用意して、見開き2ページにノート計画を書くといいでしょう。板書がノート見開き2ページ分におさまるように計画しましょう。

滋賀県総合教育センターのHPの学力向上推進チーム発センター便り『明日への一步』には、授業づくりの実践が紹介されています。第2号はノート指導についてです。参考にしてください。
http://www.shiga-ec.ed.jp/support/asuichi_02.pdf



ノート指導は年度初めに徹底しましょう

- ①日付を書く
- ②本時のめあてを書く
- ③問題を写す

- ※板書を写す時間は必ず確保し、待ちましょう。
- ※低学年はマス目黒板などを使い、黒板と同じように写せるようにしましょう。
- ※中学年以降は、自分の考えをメモするよう励ましましょう。

学習の跡が分かる板書をしましょう（1時間の学習内容を黒板一枚に収めます）

授業の流れを導入で確認。
ある程度パターン化するとOK。

単元名は分かりやすい副題をつけるなどして、毎時間確認しながら貼るのが望ましいでしょう。
「めあて」や「計画」「問題」「まとめ」などのカードは作っておくと何度も使えます。

今日の学習

- 1めあてを知る
- 2問題を読む
- 3方法を考える
- 4説明する
- 5まとめをする

図形の面積の求め方 ~エリア王国の王様に面積の求め方を教えてあげよう

めあて

台形の面積をどのように考えて求めたのか説明しよう

問題

問題

子どもの考え方

まとめ

まとめ

「今ここマグネット」
進度に合わせて動かす

復習やヒントを貼るスペース

- ・子どもを前に来させ板書させる
 - ・機器を使う
 - ・班の意見として発表させる
- などの工夫ができます

六月二十五日(木)

～第2章～ 教員としての資質を磨こう

第2章では、求められる教員の資質をふまえ、自分を見つめ、自分を磨く努力をしてみましょう。



1 自分を見つめ、準備をしよう

先輩方は良い教員になろうと、次のようなことをして備えていたようです。

アンケート調査より 6

着任までの半年間で意識して行ったこと

- 1位 ボランティア・支援員など子どもと関わる機会を持つ
- 2位 新学期を具体的にイメージしたり、実際に書いたりしてみる
- 3位 教育書を読む
- 4位 知り合いや先輩などの先生に話を聞く
- 5位 字やピアノ、絵や毛筆の練習

その他少数意見

- ・さまざまな人と関わる
- ・人と話す
- ・ストレスコントロール
- ・話す練習
- ・学級開きについてのサイトを見る
- ・教育用語のネット検索（滋賀県HP）
- ・体力づくり
- ・見聞を広める（城や博物館見学など）

〈平成26年度初任者へのアンケート調査より〉

このデータから、先輩方は知識を得るだけでなく、自分で経験し、感じたり考えたりすることを意識して行ってきたということが分かります。

近江弁！先輩の声 11 「やりきった！」といえる経験を



あなたには、「これだけはやりきった！」と自信をもっていえるものがありますか。努力が報われた瞬間の達成感や、へこたれず続けたことで生まれる誇りを感じる経験をすることは、子どもの頑張りを見守る教員にとって、大変貴重なことです。

本を200冊読む。登山に挑戦する。マラソンに挑戦する。作曲を試みる。楽器の練習をする。絵を描きあげる。史跡を訪問する。など、新たな境地へ踏み出すのも、特技を極めるのも、苦手を克服するのもよいでしょう。できるだけ具体的な目標を掲げることが重要です。「今しか遊べないぞ！しっかり遊んでおけ」という先輩の言葉も聞かれましたよ。たくさんの人に出会うのもおすすめです。

(1) 子どもと出会う機会を持つ

あなたの周りに子どもはいますか？

P. 38 に紹介した通り、多くの先輩方が、着任までの半年間で「子どもと関わる機会をもつ」ことを意識していたようです。

自然体験活動やフローティングスクールの支援スタッフとしての活動、塾や学童保育所でのアルバイトなど着任前に実際に子どもと関わっておく経験は貴重です。ボランティアとして学生を授業や活動の補助として受け入れている小学校もあります。母校に連絡をしてみるのもよいでしょう。

その際、4月から教壇に立つ自覚をもって子どもと関わるかどうかで大きな差ができます。子どもとの触れ合いを楽しむだけでなく、子ども同士の間関係や、指導されている現場の先輩教員の姿をしっかり観察しましょう。

貴重な学びの機会になるはずですよ。



近江発！先輩の声 12 学校ボランティアの経験を

私は、2年間「スクールケアサポーター」として、週3回ほど母校に通う経験をしました。初めは、子どもとたくさん触れ合えると期待を持って行きました。子どもは可愛らしく、楽しいことも多かったのですが、同時に現場の大変さを感じる場面も多くありました。

教室に入れないうちと一対一で話をするこもよくありました。様々な子どもと関わる中で、子どもが表面ではどんな態度をしていても、こちらが真剣に粘り強く関わっていけば、心が通うということを知りました。また、「かまってほしい」「今は放っておいてほしい」といった子どもの思いを見極め、距離感を調節することが大切であると知りました。

様々な学級の補助にも入りましたから、複数の先生方のやり方を見比べる機会もありました。それぞれの先生方で大きく違ふと感じたのは、話すテンポです。その先生の個性が表れると感じつつ、「自分ならどんな風にするかな」と、考えながら見ていました。どの先生からも共通して学んだのは、子どもが理解しているのかを確認しながら進めていく大切さです。

子どもとの関わりだけでなく、先輩教員の実践からも大いに学ぶことができた貴重な経験でした。ここで学んだことは、教員になった今でも大変役に立っています。

(学校ボランティア経験者・小学校2年次教員)

子ども時代の日記や自分の作品を読み返してみましよう。あなたは学級の中でどんな存在だったのでしょうか。そんなあなたに当時の先生はどんなコメントをされていますか。また文集などで「こんなタイプの子がクラスにいたら・・・」と感じながら旧友の文章を読むと、何か発見があるかもしれません。



(2) 「よく見る」を習慣にしよう

「見る」には様々な意味があります。教員にとっては、「観察する」「考えて判断する」といった「見る」が重要です。尊敬できる先輩教員の教室や授業を積極的に見たり、子どもの様子をしっかりと観察したりすることはもちろんですが、何気なく通り過ぎてしまいがちなものにふと気をとめられる感性や、見えている事象の背景を想像できる力は、プロの教員として必要です。



多忙な毎日の中、先輩教員の実践にふれた時の意識の持ち方で、学びに大きな差が出ます。先輩教員の中に留まっている「暗黙の知恵」から自分がいかに学ぶのか、という意識を持ち吸収できる人は、大きく成長できるでしょう。先輩の知恵は、経験に裏付けられたものであることが多く、細かな解説などしてくれません。子どもと関係がうまく築けたり、授業がスムーズにすすめられたりする先輩教員の、何気ない行動や言葉には、大切な意義があるはずです。

ただ見るのではなく、「意識して観察する」のです。例えば、学年集会で話される先輩の話の内容はもちろん、表情や、言葉遣い、聴けない子どもへの対応など、「なぜそのような方法なのか」「このやり方でどのようなメリット・デメリットがあるのか」と意識してみましょう。

「意識しよう」と意識しているうちに、きっと慣れてきますよ。

→ 子どもの観察については (P.56) 参照

近江発！先輩の声 13 おすすめ！他者観察

他者観察をしてみましょう。電車や病院の待ち時間など、ふとした時に誰でもいいのでターゲットを決めて、その人について色々と想像をしてみるのです。その人の服装や顔つき、表情や行動などから、その人の気持ちだけでなく、状況や背景、さらには人生までも想像を膨らませてみるのです。通りすがりのその人に関心を持って観察するのです。

観察していくうち、他人のちょっとした変化に気が付くようになってきます。また、「この人はどうしてこんな考え方をするのか」「どんな友人ならうまくいくか」など、内面の観察にも想像を及ばせてみましょう。これがくせになると、他者理解が容易になっていくはずですよ。他者理解をしながら「私と似た価値観だな」「私ならどう言うか」と、自分にも当てはめて自己理解にも役立てるとよいでしょう。人間に興味を持って日常生活を送ってください。



教員として一番大切なトレーニングだと思います。

(小学校教員)

(3) 自分のアピールポイントを知ろう

あなたはあなたが好きですか？自分の長所や短所をまるごと受け止めて、自分の魅力に変えてください。教員は人と接するプロです。「自分が好き」と思える子どもたちを育てるためには、教員自身も自分の魅力を知り、アピール方法を知っておくべきです。

ワークシート⑤ 自分の魅力を言葉にしよう

あなたのアピールポイント（長所）は何ですか？

あなたの短所は何ですか？
あげた短所を違う角度からみて、長所に言い換えてみましょう。

例) 落ち着きがない → 実行力がある・好奇心旺盛・活発 等

- →
- →

これがわたしの魅力！

近江発！先輩の声 14 笑顔の練習をしよう

- 笑顔の練習 <鏡の前でやってみよう>
 - ・口角をあげ、目じりを下げ、ほっぺたのお肉をあげて！
 - ・ほほえんで、大きな声で、満面の笑みで！

○自己紹介の練習



- ・パフォーマンスはインパクト大！
- ・簡単で覚えやすいキーワードを考えて

(平成26年度第3回初任者研修内容より)



ワークシート⑤ 記入例

ワークシート⑤ 自分の魅力を言葉にしよう

あなたのアピールポイント（長所）は何ですか？

おおらか・明るい・くじけない・ひらめきが豊か・好奇心旺盛・〇〇が得意・素直
慎重・丁寧・冷静・優しい・思慮深い・〇〇についての知識は誰にも負けない。穏やか

あなたの短所は何ですか？

あげた短所を違う角度からみて、長所に言い換えてみましょう。

例) 落ち着きがない → 実行力がある・好奇心旺盛・活発 等

- ・マイナス思考で心配性 → 慎重で、多くの場合を想定できる。困っている子どもの気持ちに共感できる。
- ・単純で思慮が浅い → よいことを素直に受け入れられる。フットワークが軽く、パワフルな魅力がある。

これがわたしの魅力！ 明るく素直なのがとりえです。前向きにどんどん吸収します。

自分の長所以外にも、できるだけ多くの語彙を挙げてみましょう。

「リフレーミング」(下注)を練習しましょう。

子どもだけでなく、同僚、保護者にも自己紹介は必要です。

いつも使うお決まりのフレーズには、自分の長所もアピールしましょう。

話す時は、表情・声のトーンも重要です。

近江雅！先輩の声 14 笑顔の練習をしよう

- 笑顔の練習 <鏡の前でやってみよう>
 - ・口角をあげ、目じりを下げ、ほっぺたのお肉をあげて！
 - ・ほほえんで、大きな声で、満面の笑みで！
- 自己紹介の練習
 - ・パフォーマンスはインパクト大！
 - ・簡単に覚えやすいキーワードを考えて



自分の得意を「虫博士」「クイズ王」といった名前でのアピールや、「自分の名前で作る折句」の紹介なども受けますよ。

- 例) ①いにち5回、
- ②むいギャグを言うけれど、
 - ③めるときは、決める先生です！

アピールポイント（長所）を表現するための語彙をより多く知っておくと、子どもの個性についても常に「ほめる」という形で伝えることができます。短所を長所に言い換えるといった、同じ事柄を違った角度からとらえて、肯定的な表現で言い換えることを「リフレーミング」といいます。このトレーニングを積み、子どもの行動や感情なども肯定的に表現できるとスムーズな学級経営にかなり有効です。

(4) 目指す教員像を描こう

あなたにとって「目指す教員像」とは、どんなものですか。影響を受けた人や物を振り返ったり、子どもに付けたい力を考えたりしながら、教員としての自分の在り方を考えてみましょう。

近江発！先輩の声 15 私のあこがれの先生

◆「悪かったと思ったらきちんと謝りなさい。」という指導はよく聞きますが、子どもの前で自らの非を認め、誠意をもって謝れるA先生の姿は印象的でした。私が「目指す教員像は？」と尋ねられて真っ先に思い浮かぶのは、そのA先生です。教育実習の担当教員でした。

私は教師になって15年経ちますが、いまだにあの頃A先生から学んだ多くのことが自分の教員としての基本的な姿勢につながっていると実感することがよくあります。

なかでも一番印象に残っているのは、やまもといそろく山本五十六氏の言葉です。

『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、

褒めてやらねば人は動かじ』

A先生から教わったこの言葉は、指導者である教員の心構えとして全教育活動に通じるものだと思います。特に私は「やってみせ」の姿勢を大事にしています。実際にあるべき姿を教員自らやってみせ、子どもに背中ですすことで、子どもとの信頼関係も生まれます。

(小学校 教員)



◆春にたんぽぽの教材を学習した時には、根っこを掘り、長さを調べたり、たくさんある花びらの数を数えたりしました。秋には、みんなで落ち葉を集めて落ち葉のシャワーを満喫しました。石の学習の時、河原から軽トラックでたくさんのお石を運んでくださり、運動場で石の学習をしたことを大人になってもよく覚えています。アイデアが豊かで、楽しい活動を色々してくださった恩師が私のあこがれの教員です。いつも明るく温かい笑顔の先生は、私の教員としての原点です。

自分が教員になり、子どもにとって体験的な活動からの学びが貴重だと実感しています。私は子どもの知的好奇心を刺激し、子どもの思考にそって楽しい学習を創れるような教員を目指しています。

その恩師をいつも温かいと感じていたのは、先生が私たち子どもの視線を大事にして授業を創ってくださっていたからだと思います。

(小学校 教員)



ワークシート⑥ 記入例

ワークシート⑥ 目指す教員像を描こう

あなたが最も影響を受けた先生は誰ですか。
あなたはその先生のどんな姿に影響を受けたのでしょうか。具体的にその先生の
どんな部分が素晴らしいと感じたのか書いてみましょう。

【「窓際のトットちゃん」の小林校長先生】

トットちゃんがトイレに財布を落とし、涙み取り口にひしゃくをつっこんでとろうとしているところへ、通りかかった時の校長先生。子どもが自分で考え、納得するまで挑戦する姿を見守る校長先生の姿勢と言葉かけに心が動いた。

いつも穏やかで優しい校長先生が、怒る場面も心に残っている。人を人として尊重する姿は、人間として素晴らしい。

あなたは子どもに、どんな力を一番つけたいと思っていますか。

自分で考えて自分で試して、自分の選択に責任をもてる子ども

これらをふまえて、あなたの目指す教員像を簡潔に言えるように考えましょう。
また、その教員像にせまるために、どんなことを心がけますか。

宣言！ こんな先生になりたい！！

子どもの人格を尊重できる。子どもの姿を前向きにとらえ、子どもの力を信じて待てる。
「大丈夫、やっごらん。」と見守れる。

あなたの魅力は反映されていますか



大切なのは、具体的な姿を思い描くことです。憧れの教員のどんな部分がどのように素晴らしいと思うのかを分析し、その姿に迫るために自分は何をすべきか考えましょう。

「例えばどんな姿？」と質問された時、具体的な場面や子どものせりふを2パターンほど答えられるよう考えてみましょう。

具体的な言葉かけなども考えましょう。

目指す教員像は必ずしも決まったものではなく、今後変わっていくかもしれません。他の教員のお手本となる姿から得たものを、自分流にアレンジして目の前の子どもにどう提供していくかを繰り返し考えながら、自らも成長していくからです。

過去に出会った先生に限らず、様々な分野の第一線で活躍する方の姿からも多くの学びがあることでしょう。もちろん子どもや保護者から学ぶこともあります。広い視野を持てるよう心がけましょう。

(5) 様々な先人から学ぼう (読書のすゝめ)

「不易」「流行」という言葉がありますが、俳句の世界に由来するこの言葉は、教育界においてもよく取り上げられます。「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)を学び、揺るがない信念を自分の中に持ちましょう。同時に「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)に柔軟に対応し、自分を磨き続けていこうとするとき、私たちは書籍から多くの学びを得られます。

ワークシート⑦ あなたの知りたいことを検索してみよう

4月から始まる教員生活を想像したとき、どんなことを知っておきたいですか。キーワードで、できるだけ具体的に挙げてみましょう。

-
-
-
-
-

インターネットで、書店で、図書館でキーワード検索してみましょう。どんな書籍が見つかりましたか。読みたいものを選びましょう。

私の1冊



☆初任の間に「これ!」という1冊を見つけましょう。

「教育とは」「学ぶとは」多くの教育の先人たちは著書や対談でそれらを語ってくださっています。そんなテーマの本もぜひ読んでみましょう。

学生のころに出会った物語を教壇に立つつもりで読み返してみると新たな側面が見えてくるでしょう。「あるべき教員の姿」「子どもをどう見るか」など大きなテーマを念頭に読書をしてみましょう。きっと今の自分に必要な学びが得られます。



ワークシート⑦ 記入例



ワークシート⑦ あなたの知りたいことを検索してみよう

4月から始まる教員生活を想像したとき、どんなことを知っておきたいですか。キーワードで、できるだけ具体的に挙げてみましょう。

- ・集団づくりに役立つゲーム
- ・学級のルール
- ・伝える力
- ・ほめ方・叱り方
- ・初任者のための書籍
- ・学級づくり
- ・保護者対応
- ・使える詩
- ・教室掲示の工夫
- ・授業づくり
- ・発問の仕方
- ・板書の工夫

アンケート調査より 7

【先輩からの検索おすすめキーワード】

- ・黄金の3日間
- ・ファシリテーション
- ・アサーショントレーニング
- ・学級アクティビティ
- ・「3・7・30」の法則
- ・ほめ言葉のシャワー
- ・担任ビギナーズ

〈平成26年度初任者研修受講者へのアンケート調査より〉

インターネットで、書店で、図書館でキーワード検索してみましょう。どんな書籍が見つかりましたか。読みたいものを選びましょう。

私の1冊 ・「」(書名)
著者(编者)名・出版社・発行年度

書名と著者(编者)名、出版社名と発行年度は、常にセットで記録しておく習慣をつけましょう。

☆初任の間に「これ!」という1冊を見つけましょう。

様々な著書に触れ、「自分のおすすめ本」を持ちましょう。

得た情報を自分で実践し、よいと感じたものは、その部分をコピーしてためていき、オリジナルの一冊を作るといった方法もあります。

インターネット検索は非常に便利で、様々な情報が得られます。参考にするための情報収集と、自分にとっての教員生活バイブル本探しを並行して進めましょう。大切な本は、是非手元において繰り返し読みましょう。読む度に、その時の自分に必要な示唆を受けられるでしょう。

また、滋賀県総合教育センターの図書閲覧室も、来所の折にはぜひ訪ねてみてください。きっとあなたの役に立つ本との出会いが待っているでしょう。

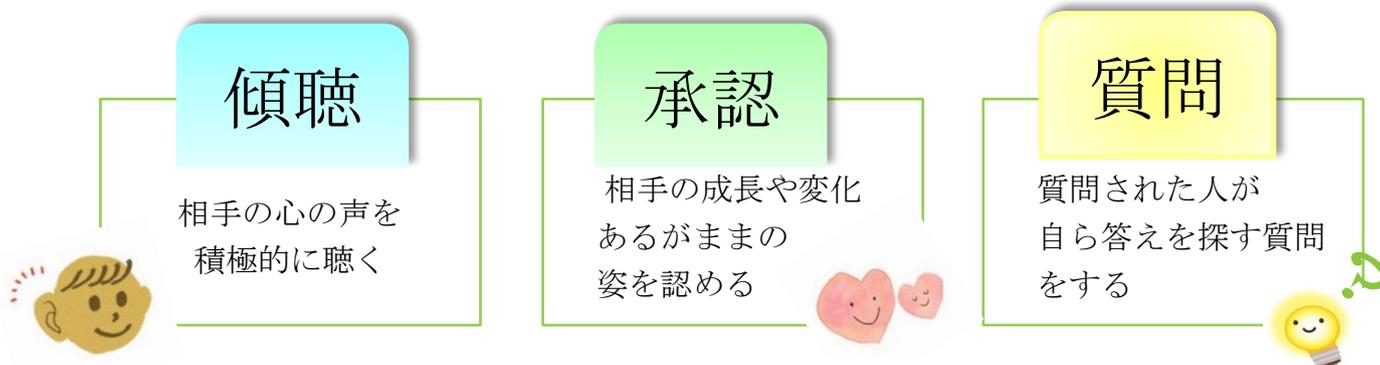
(6) 受け入れる広さを持つ

自分が成長するためにも、良い人間関係を築くためにも、相手を受け入れる広い器を持ちましょう。自分の教育観や目指す子どもの姿を軸として持ちつつ、相手の考えや新しい価値観も受け入れ、アレンジを加え自分のものにしていく力が必要です。

また、子どものありのままの姿を受け入れることで、子どもが安心感を持ち信頼が生まれます。信頼できる教員から認め励まされることで、子どもはやる気を持ち、力を発揮できるようになるのです。

ここでは、相手の主体性を引き出すコミュニケーションの手法「コーチング」を紹介します。相手を受容し、相手の力を引き出し伸ばすスキルを学びましょう。

《コーチングの基本となる三つのスキル》



→ 具体的な言葉かけについては、ワークシート⑧ (P. 50) で詳しく考えましょう。

傾聴

相手の背景や感情を察しながら聴きましょう。話しながら相手には、気づきが起こります。また、自分が「受け入れられている」と感じ、安心します。そしてお互いの間に信頼関係が生まれます。

良い聴き手になるためのポイント

- | | |
|---------|-----------------------------|
| ①環境設定 | 場所、座る位置、時間 など(詳しくはP. 52 参照) |
| ②視覚への配慮 | 表情、目線 など |
| ③聴覚への配慮 | 声のトーン、話し方、話すスピード など |
| ④言語への配慮 | 繰り返し、うなずき、あいづち、要約 など |

ONE POINT!

聴き手が相手と話すトーンや速度を合わせると、リズムが整い、話し手は楽に話せます。

あなたはどんな聴き方をしてもらえると安心しますか？

実際に友だちと二人で試してみましよう。1分間で体感できます。あなたが話し手になり、「音楽をつけっぱなしで」「そっぽ向いて」「繰り返して」「そうなんだと言いながら」相手に様々な設定で話を聴いてもらいましよう。そして話し手のあなたが心地よいと感じた聴き方を心がけましよう。誰の話でも聴く時にも意識して生活すると習慣になっていきます。

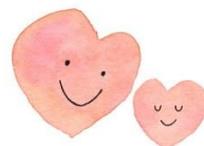
承認

存在を認められると安心します。行為や結果を認められると嬉しくなり、やる気とエネルギーが増します。認められたところはさらに伸び、承認してくれた人への信頼感が深まります。

ただほめるだけでは、相手の心は動きません。子ども（相手）を「よく見て」、ほめるところを見つけたら「タイミングよく」「具体的に」ほめることがポイントです。

承認には次の3種類があります。

- ①相手の存在そのものを認める
- ②相手の行動の結果や成果を認める
- ③結果に至るプロセスや、日常の言動・習慣などを認める



Aさんに向かって「Bさんが、Aさんに優しく声をかけてもらったってすごく喜んでいたよ。」「校長先生がAさんのあいさつは気持ちいいと感心されていたよ。」というように、「他人があなたをほめていた」という承認の仕方を「さんかくほめ」といいます。こういった方法も効果がありますよ。

質問

問う人がいれば、話し手は考えます。効果的な質問で、相手の思いを整理し、広げたり深めたりします。相手が持っている答えをうまく引き出せたら、新しい行動に結びついていきます。

限定質問

「今の説明は分かりましたか」「どこに行きましたか」といった Yes/No で答えられる質問や答えが限定される質問

→相手の考えを整理していくときに効果的

拡大質問

考えを自由に広げられる質問

例)「どういうことがわかった?」「どうしてそこへ行こうと思ったの?」

→相手の考えを広げる時に効果的

—質問する時に心がける視点—

○肯定的に質問をする 例)「どうしたらできる?」「どこまでできている?」

○未来を考えられる質問をする 例)「どんなふうにしていく?」「いつ、やる?」

普段の自分の聴き方、発言をチェックしてみてください。学級担任として子どもに安心感を与えるために、日頃から肯定的に、未来形で話せるよう練習してみましょう。肯定的な表現ができる先生の学級は温かい雰囲気が生まれます。



ワークシート⑧ 言葉かけのカードを増やそう

どんな聴き方をしてもらおうと安心しますか。

P. 48 のポイントにそってできるだけたくさん書き出してみましょう。

次の承認の仕方はP. 49 の三つの承認のうち、どれにあてはまりますか。

他にも具体的に認める言葉をたくさん書いてみましょう。

- | | | |
|--------------------------|-----------------|-------------------|
| ・ほほえむ () | ・名前をよぶ () | ・すぐ返事をする () |
| ・長所を言う () | ・期待していると伝える () | ・あいさつをする () |
| ・賞状を渡す () | ・点数や回数をほめる () | ・記録の更新をほめる () |
| ・励ます () | ・だまって見守る () | ・練習の回数をほめる () |
| ・「あなたが手伝ってくれて助かったよ。」 () | | ・「なかなか工夫したね。」 () |



肯定的な質問 (指示) ・ 未来思考の質問 (指示) に言い換えてみましょう。

- ・「どうして、うまくいかないの？」 →
- ・「なぜ、忘れ物をしてしまうの？」 →
- ・「どこがわからないの？」 →
- ・「なんで、そんな言い方したの？」 →
- ・「落とさないように気を付けて。」 →
- ・「乱暴な言い方はやめようね。」 →

ワークシート⑧ 記入例

ワークシート⑧ 言葉かけのカードを増やそう

どんな聴き方をしてもらえると安心しますか。
P.48 のポイントにそってできるだけたくさん書き出してみましょう。

- ・目を見ながら
- ・うなずきながら（相手を見て、大きく、深く）
- ・前傾姿勢で
- ・相づちをうちながら
- ・手を止めて
- ・穏やかな表情で
- ・繰り返して
- ・共感しながら（なるほど、そうか）
- ・途中でさえぎらず最後まで
- ・適度な距離で
- ・ゆったりとしたスピードで
- ・落ち着いたトーンの声で
- ・質問や切り返しをしなながら
- ・リフレーミングで肯定的に言い換えながら

次の承認の仕方は P.49 の三つの承認のうち、どれにあてはまりますか。
他にも具体的に認める言葉をたくさん書いてみましょう。

- | | | |
|--------------------------|-----------------|-------------------|
| ・ほほえむ (①) | ・名前をよぶ (①) | ・すぐ返事をする (①) |
| ・長所を言う (①) | ・期待していると伝える (③) | ・あいさつをする (①) |
| ・賞状を渡す (②) | ・点数や回数をほめる (②) | ・記録の更新をほめる (②) |
| ・励ます (③) | ・だまって見守る (①) | ・練習の回数をほめる (③) |
| ・「あなたが手伝ってくれて助かったよ。」 (③) | | ・「なかなか工夫したね。」 (③) |

「大切な役目だからよろしくね。」 「しっかり見てくれて嬉しいな。」 「すごい！」
「やったね！がんばったね。」 「あきらめなかった態度がかっこよかったよ。」
「よく待ってくれたね。」 「ありがとう。」 「あなたの笑顔で元気になれるよ。」
「初めてできたね。」 「こんなにシールがたまったね。」 「おもしろい考えだね。」

肯定的な質問（指示）・未来思考の質問（指示）に言い換えてみましょう。

- ・「どうして、うまくいかないの？」 → 「どうすればうまくいくな？」
- ・「なぜ、忘れ物をしてしまうの？」 → 「忘れないためにどんな工夫ができるかな？」
- ・「どこがわからないの？」 → 「どこまでわかった？」
- ・「なんで、そんな言い方したの？」 → 「どんな言い方をすればよかったのかな？」
- ・「落とさないように気を付けて。」 → 「しっかり握って、ゆっくり運んでね。」
- ・「乱暴な言い方はやめようね。」 → 「優しい言い方をすれば心が温かいね。」

込み入った内容の時には、落ち着いて話を聴ける環境をつくることも大切な要素です。
周りの刺激が少なく、時間が遮られる心配のない落ち着いた状況を作りましょう。

「ほめられた」と「おだてられた」ことの区別を子どもは感じます。
ポイントはタイミングです。「あなたをしっかりと見ているよ」ということを伝えましょう。

すべての出来事を肯定的に言い換えてみましょう。
肯定的な発想は意識して練習しなければ身に付きません。ぜひ、習慣にしてください。

相手を受け入れようとする、自分も相手に心を開かなければなりません。あなたは自分の失敗や弱さ、本音を語れますか。自分の弱さを受け入れ、謙虚な姿勢で助けを求められる力は大きな強みです。また、子どもに限らず聴き手には、あなたが自分に心を開いているかどうか伝わりやすくなります。教員には、相手との関係によって心の扉の開き具合を調節する力も求められます。机上の技術論だけでなく、経験から自分のスタイルを確立できるよう、様々な人と積極的に関わりましょう。

近江発！先輩の声 16 相手の気持ちに寄り添うために

私は教育相談に関わっており、対象児童の保護者や担任、関係教員と話すことがほとんどですが、相手が誰であっても、相手の気持ちに寄り添って聴くことを大切にしています。

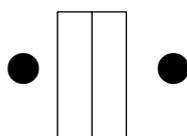
共感する時は、具体的な事柄ではなく、背後にある相手の気持ちに寄り添いましょう。例えば、「あの先生の態度はひどい。」という訴えに対して、「そうですね、それはひどいですね。」と安易に迎合するのではなく、「腹をたてているのですね。」と聴き返してください。相手の言い分が間違っているとしても、自分の感情を抑え、まず聴くことに徹しましょう。

聴き手は話し手の気持ちに寄り添いながら、表現を変えることで、否定的感情を緩和する効果があります。話し手と聴き手と一緒に状況を改善する存在です。肯定的な表現で新たな提案をされると課題解決への意欲と希望へとつながるでしょう。

また、環境設定も大切な要素と考えています。落ち着いて話ができる場所や時間の確保には十分な配慮が必要です。

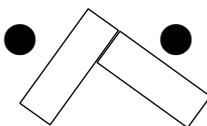
座る位置を工夫すれば雰囲気を変えることができます。

正面



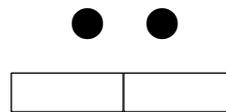
緊張感が高いが
問題解決に取り組
む姿勢を示す

斜め・90~100度



緊張感が和らぐの
で、初対面や相談
に適する

横並び



リラックスした
雰囲気子どもと
作業をする時など

視野を広くもち、周りの支えてくれる人に積極的に相談しましょう。一人で解決しようとせず、チームで関わりましょう。学校だけでなく市や県の専門機関は、チームで児童の成長のバックアップ体制を整えています。あなたもその一員であるという意識を忘れないでください。

最後に若い先生方にエールを送りたいと思います。人の悩みを聴くことは、簡単なことではありません。聴き手の自分の気持ちが安定していないと、傾聴も共感もできません。無理は禁物ですよ。学校の先生は頑張り屋さんが多いので、自身のメンタルヘルスにも十分なケアを心がけてくださいね。
(臨床心理士との談話より)



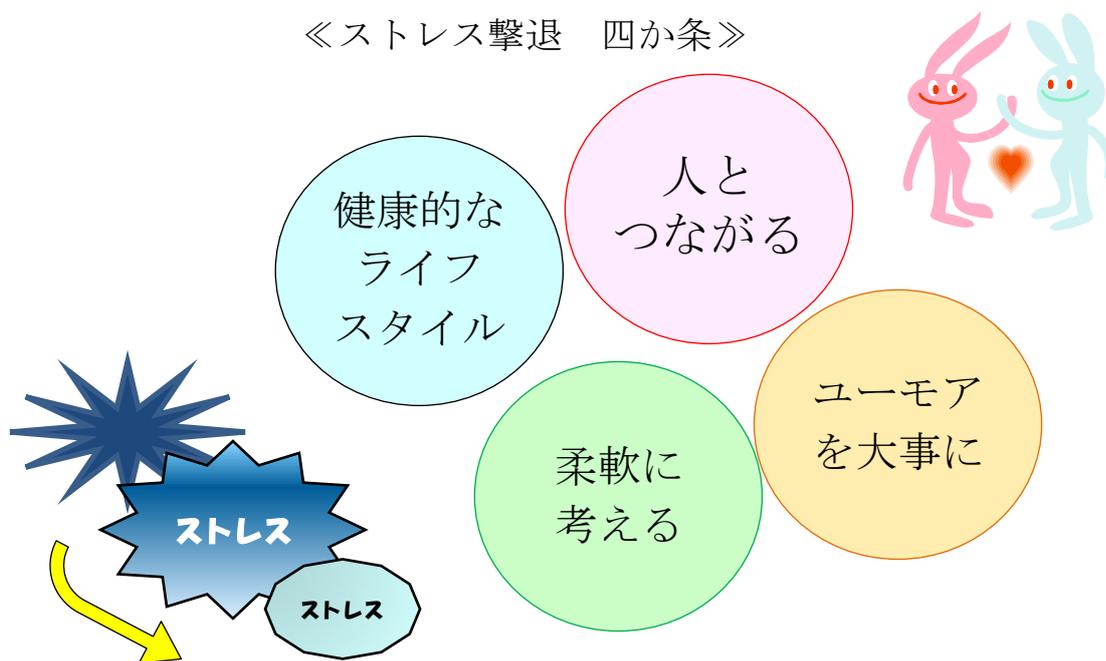
(7) ストレスとうまく付き合おう

新生活が始まってしまうと、いくらやりがいを感じる仕事とはいえ、対人関係や多忙な毎日にストレスを感じる人はおそらく少なくないでしょう。

大切なのは……

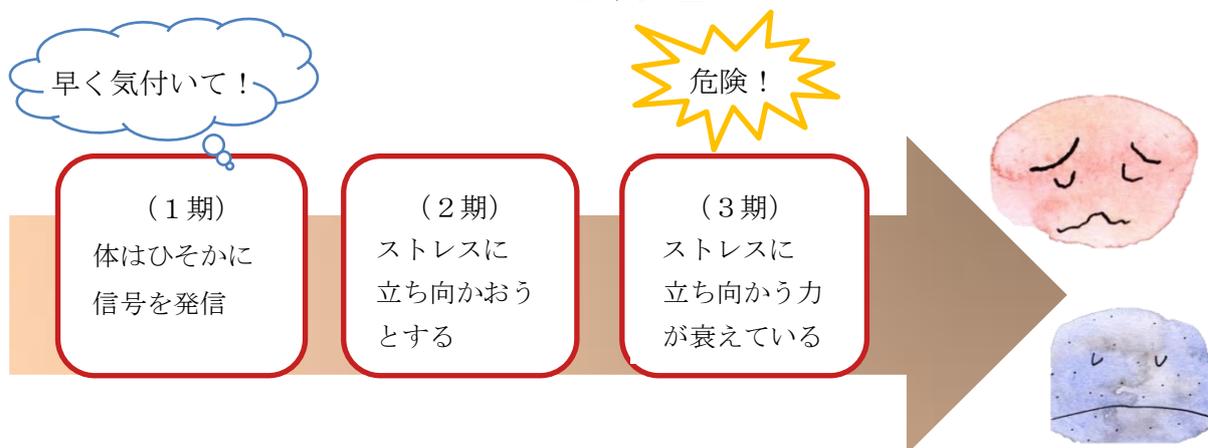
- ① ストレスをためないこと
- ② ストレスに強くなること
- ③ 自分のストレス状態を知ること
- ④ ストレスの対処法を知ること

《ストレス撃退 四か条》



「目の前の子どものために」と、つい無理をするうちに危険な状態になっているということがないように、早めに発見し、素早い対処を心がけましょう。

《ストレスの進み具合》



〈ハンス・セリエによる〉

アンケート調査より 8

あなたの“ストレス注意サイン”は？

- ・いらいらしてしまう（子どもに対して・誰に対しても・運転中・職員室で）
- ・やる気がでない ・疲れやすい ・涙がでやすい、泣けてくる
- ・笑顔がない、表情がくもっている ・ネガティブな思考になる
- ・口調が荒くなる ・無口になる ・布団から出たくない
- ・眠れない ・やたら眠い、だるい ・目が充血する
- ・肩こりがひどい ・肌荒れがひどい ・胃腸の不調

～独自のバロメーター～ ぜひ 参考に！

- ・部屋が汚れてくる ・通勤中、音楽の音量が無意識で大きい
- ・授業の準備ができていない ・飴をガリガリかみくだいて食べている
- ・生活リズムが崩れる ・信頼している人に話すのがわずらわしく感じる

＜平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より＞

ワークシート⑨ 自分のストレス対処法を見つけよう



ストレスがたまった時、あなたにはどのような反応が見られるでしょう。そんな状態に気付いたら、あなた自身でどんな対処ができますか。また、周りにいる人にどんなことを望みますか。書き込んでみましょう。

あなたのストレス注意サインは？

どんな対処法がありますか？

◆これからも続けたい行動・心がけ

周囲の人にどんなことを望みますか？

◆これからやってみようと思う
行動・心がけ

ワークシート⑨ 記入例



ワークシート⑨ 自分のストレス対処法を見つけよう

ストレスがたまった時、あなたにはどのような反応が見られるでしょう。そんな状態に気付いたら、あなた自身でどんな対処ができますか。また、周りにいる人にどんなことを望みますか。書き込んでみましょう。

あなたのストレス注意サインは？

・P.54参照

どんな対処法がありますか？

- ◆これからも続けたい行動・心がけ
 - ・〇〇さんに聴いてもらう
 - ・音楽を聴きながらドライブ
 - ・楽しい予定を計画する
 - ・悲しい映画を見て泣く

- ◆これからやってみようと思う行動・心がけ

- ・呼吸法
- ・日記を書く
- ・大きな声で笑う
- ・話題によって相手を変える

周囲の人にどんなことを望みますか？

- ・ただ、聴いてほしい。
- ・聴いて励ましたり、なぐさめたりしてほしい。
- ・そっと、放っておいてほしい。

アンケート調査より 9

【あなたのストレス対処法は？】

- ・スポーツをする ・寝る ・おいしいものを食べる ・歌う ・泣く ・笑う
- ・趣味に没頭 ・聴いてもらう（職場の仲間、友だち、学校に関係ない人、母親）
- ・休日は学校のことを考えない ・外出して気分転換 ・何もしない
- ・とことん仕事と向き合う方が、気が楽

〈平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉

普段から頭を柔らかく、できるだけたくさんの可能性を考えるようにしましょう。一人で抱え込まないためにも、人とつながっておきましょう。あなたにとって日頃から何でも話せ、思いを受けとめてくれる人は誰ですか？

誰かに相談したり、日記やメールをしたりして、頭で考えていることを音や文字にすると、自分の悩みの優先順位がはっきりして、「これから片付けよう」と思えます。ペットや植物に話しかけるのも同じ効果があるようです。

2 どの子ども自分らしく輝くために



(1) 子どもたちの普段の言動から SOS を読み取る目を育てよう

日々の学級経営の中では、多面的な見方、とらえ方をし、素早く的確に判断する力が求められます。

子どもは例えるなら多面体です。いつもの一面から少し角度を変えてみると新たな一面が見えてきます。しかし、新たな一面は教員が見る角度を変えなければ見えてこない場合が多いので、教員は先入観や思い込みをすてて、子どものふとした表情や変化を見逃さないように意識して過ごすことが大切です。

4 ページで紹介した「滋賀県いじめ対策研究チーム会議」最終報告書によれば、子どもたちの言動は、その裏にかくれた意味を読み取る判断材料と考え、それらをつなぎ合わせたその子の世界をまるごと理解することが子どもたちの声、SOS を実際に聴き取る力になると述べられています。話した言葉をそのまま文字にして、「なぜ、この子はこう言ったのか」と考える研修なども提案されています。日常のふとした会話や行動の裏にある気持ちを考えてみるのもよいトレーニングになるでしょう。

まず、相手に興味を持つことです。そして相手を思いやり、想像することが人権感覚を磨くはじめの一歩です。人権が保障された温かい学級で、子どもが安心して安全な学校生活を送れるよう保障するのは教員の最も重要な役割の一つです。

近江発！先輩の声 17 思い込みの失敗



手帳にはさんである 1 枚の手紙は若いころに私が担任していた子どもからもらったものです。破ったノートにかきなぐった乱暴な字で彼女の思いが綴られています。

この授業の前の長休み、彼女は友だちとケンカをしてしまったようです。モヤモヤした気持ちを抱えたまま算数の授業に臨み、計算練習の時間に「さっきはごめんね」といった内容の話をしていたと後で話してくれました。無駄話をしていたと決めつけ、分からないのは聞いていなかったからと思い込んだ私の一言で彼女を傷つけてしまったのです。

最初は先生が大好きでしたけど！！
今日の算数で私が「先生わかりません」と言ったら、「ちゃんと聞いとき」と言われました！
でも本当はその時、342 の 2 の部分が見えなかったので「わかりません」と言ったのに、ちゃんと聞いていたのに、「ちゃんと聞いとき」と言われて悲しかった！

はなこより



板書を写す際の配慮不足に加え、子どもが背負っている複雑な気持ちに思い至らなかった私の失敗です。

この手紙は今でも大切にしています。

(小学校教員)

(2) 特別な支援を要する子どもの対応について学ぼう

《具体的にどんなことに困りましたか?》

- ▼Aさんはじっとしているのが苦手で、席について授業が受けられないことがよくあります。どういう関わりがよいですか。
- ▼Bさんは、自分の世界に入るとなかなか周りと同じ活動ができません。どこまで許してよいのか悩んでいます。
- ▼思ったことをすぐ口に出すCさんが活躍できる取組はありますか。
- ▼学習のルールに合わない行動をするDさん。他の子にどう説明すればいいですか。
- ▼子ども同士の間関係で、特別な支援を要する子と周りの子をどのようにつなぐか悩む場面がよくあります。

<平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より>

近江発!先輩の声18 木を見て、森も見る

通常学級において約6.5%の児童・生徒が特別な支援を要するというデータがあります。個々の特性は様々で、その子のニーズに応じた対応が必要になってきます。目の前にいる特別な教育的ニーズのある子どもへの支援は、学級担任をはじめとする教職員と保護者が連携し、発達に合わせてその都度、「最適な解」を導き出すこととなります。学級担任としては、まず当事者である子どもをしっかりと見て、その子の声に絶えず耳を傾けていきたいものです。

個別の支援を考えると同時に、学級担任は、その子どもが集団の中でどのように行動しているのか、またその子どもを取り巻く集団はどうなのかという視点を常に持つことが求められます。

「木を見て森を見ず」という言葉があるように、初任者のころは、気になる子どもばかりに目を奪われがちです。個別の対応をしていくうちに、「ぼくも!」「私も!」と担任に寄せられるニーズが急増し、ついには個別の対応に追われ、結果として学級がバラバラな状態になってしまうことがあります。子どもを育てるのはその子自身、また仲間であることを念頭に置き、個別の支援にとどまることなく、集団の中で特別な教育的ニーズのある子どもが自分の力を発揮し、成長を実感できる支援を考えていくことも、担任の大切な役割であるといえるでしょう。それぞれの個性を認め合い、子ども同士をつなぐことは、特別支援教育においても忘れてはいけない大切な視点です。まさに「木を見て、森も見る」ことが求められるのです。

(中学校教員)



支援を要するとき、相手は困っているのです。「どうして話を聞いてくれないの？」ではなく、「何につまずいてのSOSサインだろう。」と考えてみましょう。そして困っていることに共感し、「どんな手立てが助けになるか」「どのような関わりが合うのか」と一緒に探ればよいのです。その際、ケースによっては学級の子ども同士の絆を育てるよい機会にもなります。誰もが個性を認め合える集団を目指しましょう。

特別な支援の具体的な手立てについては、積極的に学ぶと同時に、スキルは一例であるという前提を忘れないでください。個々のケースに合わせて、ケース会議を開いたり、その子が気持ちを落ち着けるための場所や、廊下での言葉かけについて、全員が参加する会議で確認したりするなど、教職員全体で共有することも多くあります。学校には、それらのことをコーディネートする役目の教員が配置されています。

○以下は、滋賀県総合教育センターでの特別支援教育についての研究成果物です。具体的なスキルがわかりやすくまとめてあります。是非、参考にしてください。

- ・「特別支援教育の知恵袋 実技編」平成26年3月
- ・「自己肯定感を育てる特別支援教育」平成26年3月

これらは、滋賀県総合教育センターHP 研究事業からダウンロードできます。

http://www.shiga-ec.ed.jp/index_kenkyuseika.htm



ちょっと紹介

2 安心して授業に参加できる工夫をしましょう

POINT 1 「ルールが分かる」ための工夫をする

- ・ルールを明確に

POINT 2 「聞いて分かる」ための工夫をする

- ・具体的な表現を使って伝える
- ・シンプルに伝える
- ・聞く姿勢を作る

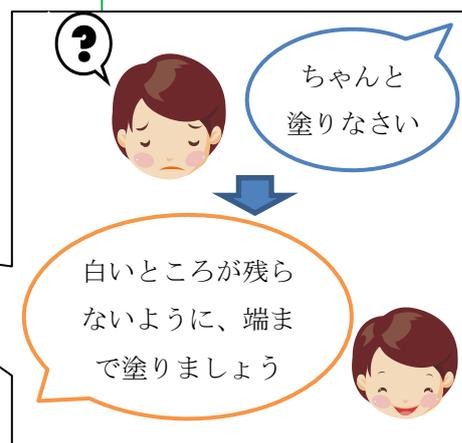
POINT 3 「見て分かる」ための工夫をする

- ・何をすることが分かる ・時間が分かる
- ・どこを見たらいいかが分かる

POINT 4 「見通しがもてる」ための工夫をする

- ・1日の流れが分かる
- ・1時間の流れが分かる

POINT 5 「落ち着ける学習環境をつくる」ための工夫をする



「特別支援教育の知恵袋 実技編」
第1章より一部抜粋

3 豊かな人間関係づくりのために

(1) 子どもとつながろう

《具体的に 困ったこと(▼)、心がけていたこと(○)は何ですか?》

▼AさんとBさんは、けんかばかりします。どうしてなのかわかりません。

▼低学年の子どもには、どんな言葉がけをすれば伝わるでしょう。

▼私の学級は些細なもめごとがたえません。良い対処法はありますか。

○子どもをほめる。一人ひとりをしっかり見る。

○「ごめんなさい」「ありがとう」をたくさん言っていました。

○一緒に遊ぶ。 ○視線を下げる。スキンシップをする。(2年担任)

○「ありがとう」の気持ちをたくさん伝える。

○子どもが話しかけてくる時は、その時がその子の話したいタイミングだと思い、必ず話を聞いた。

<平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より>

近江発!先輩の声 19 「どうしたの?」は魔法の言葉

ケンカをしている二人がいます。Aさんは真っ赤な顔をして怒っていて、Bさんは大声で泣いています。つい、「こらっ、何やってるの!やめなさい!」とAさんを怒鳴ってしまいそうな場面ですね。でも、実はBさんの方に原因があった…というのはよくあることです。

こんな時私は、「どうしたの?」と声をかけて、まずは二人を落ち着かせます。そして、子どもたちが自分から話ができる気持ちになってから、次の順番で話を進めています。

1. 「どうしたの?何があったの?」と聞いて、一人ずつ事実を確認します。

(「事実確認は個別で」というのは、聞き取りの原則です。)

2. 「お友だちのことはいいから、自分のためだったところはどこかな?」と聞いて、それぞれの悪かったところを認識できるようにします。

3. 「お友だちにどうしてほしいと思っているの?」と聞いて、相手に自分の思いが伝えられるようにします。

4. 「これからあなたは、どうすればいいと思う?」と聞いて、自分がこれからどのように行動すべきかを考えられるようにします。

話を進めているうちに、子どもたちの顔がどんどん明るくなって、終わるころには仲直り、なんていうことも。決めつけるのではなく、「どうしたの?」からスタートすると、子どもたちは自分たちから話し始め、自分たちで解決方法を見つけていきます。

「勇気出して、正直に言えたね。」「相手の気持ちも考えられたね。優しいね。」「きちんと謝れたね。」など、先生の励ましも大切な要素ですね。

(小学校教員)



(2) 保護者とつながろう

《具体的に 困ったこと(▼)、心がけていたこと(○)は何ですか?》

- ▼保護者はほとんど目上なので、どんな言葉を選んで話せばいいか迷います。
- ▼マイナスの要因を伝える時、どういう言い方をすればよいのでしょうか。
- ▼どの程度のことをどれぐらいの頻度で伝えればよいのでしょうか。
- ▼問題が起こった時、家庭や学童でのことなど見えないことが多くて、
事情を聴くだけでうまく解決策が思い浮かばず、困りました。
- できたことはまめに電話や連絡帳で伝えていました。
- 指導すべき内容の時は、家庭訪問を心がけていた。



<平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より>

子育ての先輩である保護者に敬意をはらいつつ、学校の教育理念、学級経営方針に基づき学級経営をしている学級担任の立場から、自信を持って集団の中の子どもの姿を伝えましょう。保護者への連絡はどうしてもマイナスな内容になりがちですが、日頃からどんどん子どものがんばりを伝えていきましょう。できなかったことができた時や、皆の前でほめた時など「おうちでもほめてあげてくださいね。」といった連絡をすると、保護者は「わが子を見てくれている」と感じることができます。こういった連絡を日頃から丁寧にする事で、保護者との信頼関係ができていくのです。

近江発!先輩の声20 基本は「報・連・相」

保護者への関わりの最大のポイントは大きく2点といえるでしょう。1点目は、保護者の思いをいかに受け止め、信頼関係を築けるかということ、2点目は、その期待に応えつつ、学級担任としての教育理念や自分の信念をどう伝えるかということです。まず、保護者の言い分をしっかりと聞き、受け止める姿勢が大切です。協力して状況を改善しようということを心にとめて正しく聴けば、相手から主体的な解決策がでてくるでしょう。 → (P.48-52)参照

学校でけがをした、具合が悪くなって保健室へ行った、持ち物がどうにかなったといった日は、児童の下校後すぐに連絡しましょう。児童が帰宅する前に知らせることが大切です。

保護者から「相談したい」などの連絡があったときには、学年の教員、管理職などへの「報告・連絡・相談」が基本です。その後、指示に従いましょう。

忘れがちなのは、その後の対応です。解決後の対応は、担任が担うこととなります。少なくとも一、二週間は「その後学校では○○です。おうちではどうですか。」と、担任から何度か連絡を入れましょう。それが信頼関係を作っていくのです。学校の方針や、担任としての方針は、この時に伝えても決して遅くはありません。

(小学校長)

(3) 子ども同士をつなごう

安心できる学級づくりのためには、子ども同士がお互いを受容できる温かい雰囲気をつくるのが重要です。担任教員は、子ども同士をつなぎ、お互い高め合えるよう手助けをする役割であることを心がけましょう。

子ども同士をつなぐ様々な取組は、特別活動の時間をはじめ、様々な場面で、子どもの発達段階や学級の実態に合わせ、無理のないように挑戦してみましょう。

「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（平成26年6月、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター）には、特別活動の理論と実践が具体的に示されています。

「指導資料」に先駆けて平成25年に出版されたリーフレット部分はずいぶんダウンロードして手元に持っておきましょう。



http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_e_datab.pdf

また、平成25年度滋賀県総合教育センターでの「生徒指導・人権教育に関する研究Ⅰ」として「クラス会議」や「かいけつオタスケマット」などの取組が紹介されています。同センターのHPで閲覧、ダウンロードできます。子どもの実態を配慮しながら挑戦してみるのもよいでしょう。

http://www.shiga-ec.ed.jp/index_kenkyuseika.htm

近江発！先輩の声21 班で朝のトーク

私にとって「朝の会」は、子どもたち同士がコミュニケーションをとる機会を設定できる貴重な時間です。学活でのワークショップなどは違って、「毎日、簡単にできる取組」を続けていくことを心がけています。



朝の会では、「班で1分間トーク」の取組を続けています。その日の日直がくじを引き、その日のトークテーマを決めます。くじの内容は次のようになっています。（班は4～5人の生活班です。）

- ①班トーク ②班でテーマトーク ③先生問題 ④ゲーム

テーマや問題、簡単なゲームは担任の私が用意します。①の目が出た場合のみ日直がもう一度トークテーマボールをBOXから取り出し、トークテーマが決まります。1～2分の短い時間ですが、一気に教室が活気づきます。全員が話したり、聴いたりできます。



朝から全員の前でスピーチをすることに強い苦手意識を持つ子どもにとっても、朝から気持ちよく会話を交わし、短時間でできるこの取組を続けることで、少しずつですが学級に受けとめる温かい雰囲気が生まれ、話すスキルが身に付いてきます。

（小学校教員）

(4) 職員間で学び合おう

アンケート調査より 10

一言アドバイス③ ~2年目の先生より



○少し気になったこと、うまくいったと思ったことなど、会話の中で周りの先生方に今日の様子を報告していくといいと思います。普段から話しておく、フォローしてもらいやすく、自分も安心でした。また、自分の判断に助言していただくときもあり、私はそんな放課後の会話の中で学んだことがたくさんありました。

(2年担任・女性)

○全部自分で、と抱え込まなかったのがよかったと思います。先輩の先生に聞くときは、自分なりの考えを持って相談に行くよう心がけていました。「□□について、~だから〇〇したいと思うのですがどうでしょうか?」という感じです。行動する前に相談し、時には修正をしてもらいながら進めていました。

(3年担任・女性)

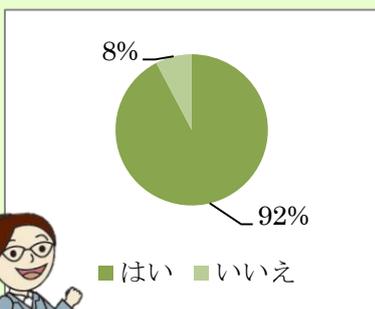
○「今はたくさん助けてもらって構わない。ただし、いつか後輩にその分を返してあげてくれ。」と先輩に言われました。助けてもらうことは恥ではありません。むしろ初任者の特権だ! くらいの気持ちでチャレンジしてください。

(3年担任・男性)

<平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より>

アンケート調査より 11

あなたには目標とする教員がいますか?



Q どのような姿から目標とするようになりましたか?

- 子どもや授業に対する取り組みの姿勢
- 常に学び、この仕事を楽しんでいる姿
- メリハリのつけ方、注目のさせ方など教育スキルが高い姿
- 見通しをもって仕事を進めている姿
- いつも明るい人柄、前向きでパワフルな姿
- 心配りができ温かい笑顔で信頼を得ている姿



<平成26年度初任者研修・教職2年次研修受講者アンケート調査より>

心の中に「目指す教員像」を描き、学び続ける意識を持っていれば、あらゆる場面で身近な教員仲間から多くのことを学べるでしょう。

近江発！先輩の声 22 わが校の学び合い

学級担任である私たちは、「学び合い」の場がある授業、「学び合い」のできる学習集団を目指して、日々教材研究や学級経営に取り組んでいます。「学び合い」のできる学級では、子どもたちは友だちとの関わり合いの中で多くを学び、自分の良さや持ち味を發揮することにより、自信を持って学習や活動に取り組むことができます。

この「学び合い」の姿が自分の所属する職場にあれば・・・そんな思いで取り組んできた「教員の学び合い」の実践について紹介したいと思います。

「勉強会がしたい！」という若い先生の声から始まった学習会。三十代の中堅教員と、二十代の教員が、月に1回、金曜日の授業終了後に集まり、その月に合った様々なテーマで研修するというものです。そのテーマ例としては、

- わたしの学級開き・授業始めのアイデア
- 子どもと遊ぶアイデア
- 指導方法チェック（お互いの授業を見合おう）
- エンカウンターを活用した学級集団づくり
- わたしのヒット教材、ヒット授業
- 指導案をつくろう
- 歌唱指導、書写指導実技講座（先輩の実践を学ぼう）
- 外国語活動教材づくり

など、年度初めに「こんなことを学びたい」というメンバーの意見から年間計画を立て、取り組んできました。

この学習会で大切にしてきたのは、以下のようなことです。

- ・参加者が、実践やアイデアを持ち寄ること
- ・自分の意見や思い、時には悩みごとや失敗談もどんどん伝えていくこと
- ・学んだことは、とにかくやってみること



主体的な姿勢で参加するため、そして実際の取組に生かすために、「宿題」を持ち寄って会に臨むようにしました。時には、ベテランの先輩教員にも講師として参加してもらい、普段は聞けない話を聞いたり、悩みごとを相談したりする時もありました。反対に、若い先生たちのアイデアや取り組みから、ハッと気づいたり、なるほどなあと学んだりすることもあり、まさに「学び合い」です。また、バーベキューやボーリング大会などで親睦を図ることも……。このような小さな楽しみも、教員の仲間意識を高めていく一つの手立てではないかと思えます。

このような学習会をしていると、普段は「教える」立場である自分が「学ぶ」立場になり、子どもたちの学習経験を追体験し、新しい発見をすることができます。

『学ぶ』は『真似ぶ』から。」先輩教員から教わった言葉を思い出します。何より、共によい教育を目指す仲間がいることはとても心強いものです。（小学校教員）

アンケート調査より 12

教員としての姿勢についてのアドバイス ~2年目の先生より

- ◎ 失敗をおそれずに！積極的にチャレンジしよう。
 - ・失敗は次への資料と考えよう。
 - ・組織の一員として、失敗は必ず報告しよう。
- ◎ 子どもを好きな気持ち、忘れないで。
 - ・子どもの姿から学びます。
 - ・遠慮せず子どもにぶつかっていい。
- ◎ 健康第一！自分の方法を見つけよう。
 - ・深呼吸をしたり、ゆったりお風呂につかったりしているとよい発想が生まれることもあります。
 - ・オフは切り替えてしっかり遊ぼう。
- ◎ すぐ相談！なんでも報告しよう。
 - ・もらったアドバイスは自分で選び、決めよう。
 - ・話しやすい人を見つけよう。
- ◎ 周りからしっかり吸収！周りの先生の動きをよく見よう。
 - ・教室や掲示物、授業も参観させてもらおう。
 - ・真似よう。盗もう。そのうちオリジナルが固まってきます。
- ◎ 職場、子ども、保護者との人間関係づくりは基本です。
 - ・「子どもをどう成長させたいのか」その思いをぶれさせることなく、全力でぶつかろう。
 - ・自分から飛び込んでいけば、相手は受け止めてくれます。
 - ・毎日笑顔で積極的に！



〈平成26年度教職2年次研修受講者へのアンケート調査より〉





～あとがきにかえて～

(先輩教員からのメッセージ)

子どもたちは、「私たちが温かく見守り、よく理解し、思いを大事に受けとめて相談等に乗ってくれる先生」また「授業等で、わかりやすく丁寧に教えてくれる、楽しく学ばせてくれる先生」を望んでいる。このような先生が私たちの先生・学級担任の先生であってほしいと望んでいる。まさに、授業力と学級経営力を有している先生が求められているといえる。特に小学校では、授業・学級経営等、多くの時間や学習の場が学級担任に委ねられている。

さらに、いじめ、虐待、学級崩壊、さまざまな悩みなどを有する子ども、特別な支援を必要とする子ども、人間関係が上手くいかずに集団になじめない子どもなど、深刻な課題に対応していかなければならない。学級担任の責務は極めて重要である。

学級の営み、一人ひとりの子どもへの関わりは容易なものではない。先輩教員の指導助言を謙虚に取り入れる、他のクラスの良い実践を貪欲に吸収するなどの積極的な姿勢が大事だと思う。そして誠心誠意、日々の取組を積み重ねていく中で、より豊かな学級の営みが可能となる。子どもにとって、かけがえのない学級担任であることの自覚と責任感をもって学級経営に心血を注いでほしい。

「やさしい 温かいまなざし」で子どもを見守り、指導・支援ができる教員、また、教員自身が高い専門性・豊かな感性・人間力を身に付けるための自己鍛錬を自らに課し、学び、成長し続ける教員であってほしい。

○ 学級経営において大事にしたいこと

学級は（での）

充実した学校生活を送る為の基盤

単なる集団ではない、学習集団

人間力や社会力を学び、磨く場

好ましい集団づくりを通して仲間意識や人間関係を学ばせる場

基本的な生活習慣・学習規律の定着は学習の充実向上の基盤

単なる「居場所」ではなく、一人ひとりが認められ、必要とされる「要（い）場所」

教室環境は所属感や学級文化を高める、教室の乱れは学級秩序の乱れ



(大学 教育学部 特任教授)



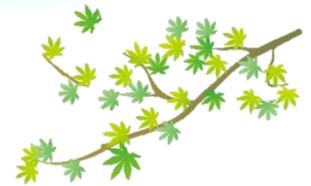
様々な教育課題への対応が求められている中、道徳教育の柱である生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感等は、小学校の頃に集団で揉まれた経験や感動体験、失敗体験等を通して育まれていくものです。

「火おこしから始めた野外炊事」「動植物にどっぷり触れ合った自然観察」「頂上まで登り切った登山」などの活動を友だちと協力し励まし合いながら、暑くても苦しくともやり遂げ、「感動」を味わわせ、生きる力に繋げて行ってほしいと願っています。

(小学校長)

スタート時の学級は、初めて乗り合わせた舟のようなものです。それぞれが勝手に漕いでいては、ちっとも前に進みません。共通の目標を立てて、全員でその達成に向け、力を合わせて漕ぐことで、舟は少しずつ進んでいきます。実現までのさまざまな苦労も、やり遂げることで大きな喜びに変わります。そんな喜びを共に味わえるような学級集団をつくっていきましょう。

(滋賀県教育委員会事務局 学校教育課 指導主事)



「子どもが話を聞かんのやなく、聞けへんような話をする教員が悪いのと違うか？」

新任の時に先輩に言われ、苦い思いで受け止めたこの言葉が、何年経っても自分の学級経営を支えている気がします。

足りないことは謙虚な姿勢で学び、「今の自分だからできる」ことを武器に子どもたちと向き合えるのが、若手教員時代。恥をかき、汗をかくて経験したこと全てが財産です。

私自身も、そんな若い先生方とともに学んでいける教員でありたいと思います。

(小学校教員)

子どもたちが一生懸命がんばっている姿、「できた！わかった！」のきらきら輝く瞳、「くやしい…」の涙。人として輝いているこのような姿にいつも出会えることは、教員の特権だと思っています。

私と子どものつながりももちろん大切ですが、いかに子ども同士がつながるか、つなげるためにはどんな活動をしようか…。それがうまくいったときの子どもたちの笑顔を力に、「今のこの子たちに必要なことは何か」をいつも考えている教員仲間であられると嬉しいです。

(小学校教員)



～資料～

1 アンケート調査について

- (1) 平成 26 年度教職 2 年次研修 受講者 148 名対象、滋賀県総合教育センター研修会場にて
実施日：第 1 回・平成 26 年 4 月 18 日、第 2 回・平成 26 年 8 月 11 日
- (2) 平成 26 年度初任者研修 受講者 149 名対象、滋賀県総合教育センター研修会場にて
実施日：第 1 回・平成 26 年 5 月 20 日・22 日、第 2 回・平成 26 年 8 月 8 日

2 参考文献と資料

- ・『学級経営 重要用語 300 の基礎知識』、明治図書出版、平成 12 年(2000 年) 6 月、高旗正人(編集)
- ・『教師力をアップする 100 の習慣』、明治図書出版、平成 23 年(2011 年)7 月、大塚謙二
- ・『新版 教師になるということ』、学陽書房、平成 25 年(2013 年) 2 月、池田修
- ・『吉永幸司の国語指導入門』、小学館、平成 26 年(2014 年) 2 月、吉永幸司(編著)
- ・『子どものやる気を引き出すスクールコーチング』、学陽書房、平成 20 年(2008 年) 3 月、神谷和宏
- ・『児童生徒のいじめ・うつを予防する心理教育“サクセスフル・セルフ”』、岡山大学出版会、平成 24 年(2012 年) 3 月、安藤美華代
- ・『授業力&学級統率力 4 月号』、平成 25 年(2013 年) 4 月、明治図書出版
- ・『授業力&学級統率力 7 月号』、平成 25 年(2013 年) 7 月、明治図書出版
- ・『児童心理 4 月号』平成 26 年(2014 年)、金子書房
- ・「平成 26 年度(2014 年度)初任者・新規採用教職員ハンドブック-教育実践を深めるために-」、滋賀県総合教育センター、平成 26 年 3 月
- ・「桑名発!学級づくりのポイント」、桑名市教育研究所、平成 25 年(2013 年) 3 月

滋賀県総合教育センターにおける研修

- ・「豊かな心を育む生徒指導～児童・生徒の成長をより促進させるために～」、平成 26 年(2014 年) 4 月、第 1 回教職 2 年次研修[第 1 回]、櫻井悦子(コミュニケーションオフィス BLOSSOM コミュニケーションコンサルタント)
- ・「OJT 推進のためのコーチング-学校組織の中核としての資質向上のために-」、平成 26 年(2014 年) 7 月、ミドルリーダー研修[第 2 回]、稲垣友仁(株式会社コーチングシステムズ取締役)
- ・「ストレスとの上手な付き合い方」、平成 26 年(2014 年) 6 月、初任者研修[第 4 回]、村上晶子(県立精神医療センター主任技師・臨床心理士)
- ・「児童生徒の自己判断・自己行動を支援する生徒指導」、平成 26 年(2014 年) 8 月、教職 5 年経験者研修[第 2 回]、安藤美華代(岡山大学大学院教育学研究科教授)
- ・「保護者との連携」、平成 26 年(2014 年) 8 月、初任者研修[第 8 回]、成田幸夫(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

3 リンク

- ・「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」、平成 24 年(2012 年) 8 月、中央教育審議会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm

- ・「こんにちは教育長です」平成 26 年(2014 年) 4 月、滋賀県教育委員会

<http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/kyouikucho03/kyouikucho.html>

- ・「第 2 期滋賀県教育振興基本計画」平成 26 年(2014 年)

www.pref.shiga.lg.jp/edu/sogo/keikaku/dai2kikeikau/index.html

- ・「第 2 期滋賀県教育振興基本計画のポイント」、平成 26 年(2014 年) 3 月、滋賀県教育委員会

<http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/gakko/gakkosisin/files/data04.pdf>

- ・「滋賀県学校教育の指針」、平成 26 年(2014 年) 3 月、滋賀県教育委員会

http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/gakko/gakkosisin/24_mokuji.html

- ・「最終報告書 ～いじめ問題の本質と対策について～」、平成 25 年(2013 年)11 月、滋賀県いじめ対策研究チーム会議

http://www.shigaken-gikai.jp/voices/GikaiDoc/attach/Nittei/Nt3508_04.pdf

- ・「学力向上推進チーム発センター便り『明日への一歩』(第 2 号)」、平成 26 年(2014 年) 7 月、滋賀県総合教育センター

http://www.shiga-ec.ed.jp/support/asuichi_02.pdf

- ・「平成 25 年度滋賀県総合教育センター研究成果物」、平成 26 年(2014 年) 3 月、滋賀県総合教育センター

http://www.shiga-ec.ed.jp/index_kenkyuseika.htm

- ・「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 (小学校編)」、平成 26 年(2014 年) 6 月、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_e_datab.pdf